

人環レビュー

教育・研究活動の自己評価

資料編

2016



● 目 次

目次	— 1	1. 研究教育体制	— 8
人間・環境学研究科 教育研究上の目的と方針	— 3	【資料 1-1】 研究教育組織	9
人間・環境学研究科 教育研究上の目的	3	【資料 1-2】 他部局ならびに学外諸機関との協力体制	10
人間・環境学研究科 入学者受入れの方針		【資料 1-3】 人間・環境学研究科 教員構成	11
(アドミッション・ポリシー)	3	【資料 1-4】 総合人間学部 教員構成	12
人間・環境学研究科教育課程編成・実施の方針		【資料 1-5】 管理運営組織	13
(カリキュラム・ポリシー)	4	【資料 1-6】 委員会組織	14
人間・環境学研究科 学位授与の方針		【資料 1-7】 教員数の推移	15
(ディプロマ・ポリシー)	4	【資料 1-8】 教員の年齢・性別構成	17
人間・環境学研究科 学位授与基準	4	【資料 1-9】 授業科目の担当状況	17
		【資料 1-10】 事務職員・技術職員の配置状況	17
総合人間学部 教育研究上の目的と方針	— 5	2. 総合人間学部	— 18
総合人間学部 教育研究上の目的	5	【資料 2-1】 学生数の推移	19
総合人間学部 入学者受入れの方針		【資料 2-2】 入学状況	19
(アドミッション・ポリシー)	5	【資料 2-3】 編入学生の受入状況	19
総合人間学部 教育課程編成・実施の方針		【資料 2-4】 転学部の状況	20
(カリキュラム・ポリシー)	5	【資料 2-5】 留年・休学・退学の状況	20
総合人間学部 学位授与の方針		【資料 2-6】 分属の状況	20
(ディプロマ・ポリシー)	5	【資料 2-7】 各学系の授業形態	21
		【資料 2-8】 授業形態別履修者数	21
沿革	— 6	【資料 2-9】 総人ゼミの開講状況	21
歴代総合人間学部長・人間・環境学研究科長	7	【資料 2-10】 他学部聴講の状況	21
		【資料 2-11】 単位互換制度の利用状況	22
		【資料 2-12】 入学前既修得単位の認定状況	22
		【資料 2-13】 成績評価の方法	22
		【資料 2-14】 全学共通科目の開講コマ数（平成 28 年度）	23
		【資料 2-15】 標準修業年限内卒業率と	
		「標準修業年限×1.5」年内卒業率	23
		【資料 2-16】 主専攻・副専攻の文理分布	23
		【資料 2-17】 資格取得状況	24
		【資料 2-18】 卒業生の進路	24
		【資料 2-19】 就職状況	25
		【資料 2-20】 奨学金制度・免除制度の採用状況	26
		3. 人間・環境学研究科	— 28
		【資料 3-1】 人間・環境学研究科 学生数の推移	29
		【資料 3-2】 修士課程 入学状況	29
		【資料 3-3】 博士後期課程 進学・編入学状況	29
		【資料 3-4】 修士課程 留学生・社会人の入学状況	30
		【資料 3-5】 博士後期課程 留学生・社会人の進学・入学状況	30
		【資料 3-6】 留年・休学・退学の状況	30



【資料 3-7】 研究生在籍数	31
【資料 3-8】 修士課程 開設科目数	31
【資料 3-9】 他研究科への聴講の状況	31
【資料 3-10】 単位互換制度の利用状況	31
【資料 3-11】 入学前既修得単位の認定状況	32
【資料 3-12】 TA 採用状況	32
【資料 3-13】 TA 運用状況	32
【資料 3-14】 RA 採用状況	32
【資料 3-15】 成績評価の方法	33
【資料 3-16】 修士課程 単位修得状況	33
【資料 3-17】 修士課程 学位授与の状況	33
【資料 3-18】 修士課程 標準修業年限内修了率と 「標準修業年限×1.5」年内修了率	33
【資料 3-19】 修士課程修了者の進路	34
【資料 3-20】 修士課程修了者の就職状況	34
【資料 3-21】 博士後期課程 学位授与の状況	35
【資料 3-22】 博士後期課程 講座別学位授与の状況	35
【資料 3-23】 博士後期課程 標準修業年限内修了率と 「標準修業年限×1.5」年内修了率	36
【資料 3-24】 博士後期課程修了者・研究指導認定退学者の進路	36
【資料 3-25】 博士後期課程修了者・研究指導認定退学者の 就職状況	36
【資料 3-26】 教員免許状資格取得状況	36
【資料 3-27】 日本学術振興会特別研究員への採用状況	37
【資料 3-28】 奨学金制度と免除制度の採用状況	37

4. 教育研究指導 — 38

【資料 4-1】 ガイダンスについて	39
【資料 4-2】 学習指導方法の工夫	40
【資料 4-3】 授業時間外の学習を促す工夫	41
【資料 4-4】 基礎学力不足の学部学生への配慮	42
【資料 4-5】 研究教育上の目的やディプロマ・ポリシーを 意識した学習方法・成績評価の観点（基準）	42
【資料 4-6】 大学院生の学会発表者数	43
【資料 4-7】 学会への参加を促す取り組み	43
【資料 4-8】 他大学・公的機関および企業との共同研究の件数	43
【資料 4-9】 他大学・公的研究機関の共同利用施設・設備の 利用に関わる研究課題採択数	44
【資料 4-10】 部局内及び部局を構成する学内外研究機関との 共同研究	45
【資料 4-11】 学際教育研究部の活動	46
【資料 4-12】 外部資金等の受入状況	48
【資料 4-13】 学生・修了生が獲得した助成金等	49

【資料 4-14】 総長裁量経費若手研究者に係る 出版助成による出版物	50
【資料 4-15】 学生・修了生の受賞状況	52
【資料 4-16】 学生の論文掲載数	55
【資料 4-17】 メディアに取り上げられた 学生・修了生	55
【資料 4-18】 教育コンテンツ等の作成について	60
【資料 4-19】 学生相談室の利用件数	61

5. 国際交流 — 62

【資料 5-1】 外国人留学生受入数の推移（総合人間学部）	63
【資料 5-2】 外国へ留学等をした学生数の推移（総合人間学部）	63
【資料 5-3】 外国人留学生受入数の推移（人間・環境学研究科）	63
【資料 5-4】 出身地域別留学生受入数（人間・環境学研究科）	64
【資料 5-5】 外国人研究者等受入数の推移	65
【資料 5-6】 外国人研究員（客員教授・客員准教授）による 国際交流セミナー開催状況	65
【資料 5-7】 部局間学術交流協定締結先一覧	66

6. 施設・設備 — 68

【資料 6-1】 使用目的別 室数と保有面積	69
【資料 6-2】 使用形態別 室数と保有面積	69
【資料 6-3】 吉田南総合図書館について	70

7. 社会との交流・公開 — 72

【資料 7-1】 公開講座	73
【資料 7-2】 総合人間学部オープンキャンパス開催状況	74
【資料 7-3】 本研究科関係発行元による学術誌	75
【資料 7-4】 アウトリーチ活動について	75

8. 各種アンケート調査 — 76

【資料 8-1】 総合人間学部 在学生・卒業生アンケート	77
【資料 8-2】 人間・環境学研究科 修士課程 M2 学生アンケート	83
【資料 8-3】 人間・環境学研究科 修士課程修了時アンケート	85
【資料 8-4】 京都大学総合人間学部・人間・環境学研究科同窓生 アンケート（平成 24 年度実施）	87
【資料 8-5】 「社会が見た京都大学総合人間学部・ 大学院人間・環境学研究科」アンケート調査 （平成 27 年実施）	90

● 人間・環境学研究科 教育研究上の目的と方針

人間・環境学研究科 教育研究上の目的

人間・環境学研究科は、環境、自然、人間、文明、文化を対象とする幅広い学問分野の連携を通じて、人間と環境のあり方についての根源的な理解を深めるとともに、人間と環境のよりよい関係を構築するための新たな文明観、自然観の創出に役立つ学術研究を推進することを目指す。また、こうした研究活動を推進するなかで、人間及び環境の問題に対して広い視野、高度な知識、鋭い先見性をもって取り組むことのできる研究者、指導者、実務者を養成することを目的とする。

<共生人間学専攻>

共生人間学専攻では、「人間相互の共生」という視点に立ち、人間と環境の相関関係において人間の根源を探求しつつ、現代社会の具体的諸課題に取り組み、社会的要請に柔軟に応えられる研究者、指導者、実務者の養成を目指す。

<共生文明学専攻>

共生文明学専攻では、共生・融和の可能性を追求するため、多様な文明の間にみられる対立・相克の構造を解明するとともに、歴史・社会・文化の諸相にわたって複雑にからみあう文明の諸問題に新たな見地から取り組み、解決の方向性を示すことのできる研究者、指導者、実務者の養成を目指す。

<相関環境学専攻>

相関環境学専攻では、人間と自然環境の関わりを包括的に理解することを目指した基礎研究を展開するとともに、自然と人間の調和を図るために必要な新しい社会システムの確立に、高度な見識と科学的・論理的判断力をもって貢献することのできる研究者、指導者、実務者の養成を目指す。

人間・環境学研究科 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

現代の科学・技術は、人間の可能性を限りなく押し広げてきた反面、地球環境問題、エネルギー問題、地域紛争、富の地域間格差等の諸問題を次第に顕在化させ、グローバル化の波とあいまって、わたしたちに新たな課題をつきつけています。大学院人間・環境学研究科は、こうした新たな問題群に立ち向かい、地球規模での危機的状況を打開・克服するために、これまでの知の蓄積を踏まえつつ、新たな知のパラダイムを構築することのできる人を求めています。

人間・環境学研究科への入学を希望する人に求めるものは、下記に示す資質・能力です。

- (1) 特定の学問分野を主軸とする専門的研究において、問題の設定からその解決方法の提示に至る研究過程に取り組むことのできる知識、能力ならびに熱意を有していること。
- (2) 他者や異文化に対する理解を尽くした上で、自らの見解を形成し、それを豊かに表現するプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ならびにリーダーシップを持っていること。
- (3) 人文科学・社会科学・自然科学を横断する幅広い知識と教養を身につけ、自らの専門分野のみに閉じこもらない、人間・文明・自然に対する、多角的な視点や柔軟な発想力を培っていること。
- (4) 「人間・環境学研究科」の名称にある「・」は、加算的な意味合いの「・」ではなく、乗算的な意味合いのそれである。この名称が示唆するように、既成の知を熟知しているだけでなく、それを基盤に新たな創造的飛躍をなすうる知的軽やかさを身につけていること。

人間・環境学研究科の入学者選抜においては、上記の資質・能力を多角的に測るため、専門分野についての筆答試験、外国語の筆答試験、および口述試験または論文試験を柔軟に組み合わせて評価をおこないます。

人間・環境学研究科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 社会に湧き起こる新たな問題群の解決には従来の思考枠では対処することができないという基本認識に立ち、新しいパラダイムを創出するという目的意識の下に、本研究科に共生人間学、共生文明学、相関環境学の3専攻を置く。同一専攻に近接分野を多く配置することによって専門性に力点を置き、専門を掘り下げてその裾野を広げ、裾野を広げることによって頂上を高くすることを目指す。
2. 修士課程では、学生には研究指導科目を中心とした自専攻開設科目を履修させるが、研究の視野を拡大するために他専攻開設科目の履修をも推奨する。指導体制については、主指導教員と複数の副指導教員による複数指導体制を採り、狭い専門の殻に自閉しないよう配慮する。
3. 学位論文の作成を目的とする博士後期課程では、指導教員との密接な接触の下に研究を深化させる。ここにおいても副指導教員を配置した複数指導体制を採り、複眼的思考の強化育成を図る。
4. 新しい研究領域を創成しようとする本研究科においては、教育課程は単位履修と一体であるとの認識に立ち、時代的要求をも考慮しながら講義科目の内容を深化させ、研究の自発性を高めていく。
5. 学際的ないし超学的研究を指向して新しいパラダイムを創成するという研究科の理念を実現するために、講座横断的・専攻横断的なコースワークの設置や、特定の問題に対して諸学問分野を動員するといった教育研究のあり方を模索する。

人間・環境学研究科 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 修士課程においては、必修である研究指導科目、選択必修である自専攻開設科目、さらに選択科目である他専攻科目を履修し、幅広い知識と高度の研究能力を修得した上に、相当の研究成果を上げた学生に対し、修士号を授与する。
2. 博士後期課程においては、特別研究、特別演習、特別セミナーを履修し、所定の単位を修得した上で、「着想の独創性」、「問題解決の企画力」、「持続的努力」などの観点からめざましい学問的成果を上げ、優れた学位論文を作成した学生に、博士（人間・環境学）の学位を授与する。

人間・環境学研究科 学位授与基準

- ・修士課程においては、必修である研究指導科目、選択必修である自専攻開設科目、さらに選択科目である他専攻開設科目を履修し、幅広い知識と高度の研究能力を修得した上で、「着想の独創性」、「論述の論理性」などの観点から相当の研究成果を上げたと認められる学位論文を作成した学生に対し、修士（人間・環境学）の学位を授与する。
- ・博士後期課程においては、特別研究、特別演習、特別セミナーを履修し、所定の単位を修得した上で、「着想の独創性」、「論述の論理性」、「問題解決の企画力」、「持続的努力」などの観点からめざましい学問的成果を上げたと認められる優れた学位論文を作成した学生に、博士（人間・環境学）の学位を授与する。

● 総合人間学部 教育研究上の目的と方針

総合人間学部 教育研究上の目的

総合人間学部は、人間と文明と自然の結びつきに新たな次元を確立するために、人類が直面する様々な問題を人間活動の広範な諸領域を通じさせる形で問い直し、これまでの人文科学、社会科学、自然科学を融合した新しい学問の体系を構築することを、すなわち、新たな「人間の学」の創出を目指す。さらに、このような学問的探求を通じて、科学技術の急速な発展と国際化の進展など著しく変化するこれからの社会に対して、持続的かつ創造的に対処しうる広い視野を持った人材を育成することを目的とする。

総合人間学部 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

総合人間学部は、たえず変化する現代社会における人間と文明と自然の新たな結びつきを見出すために、人文科学、社会科学、自然科学を横断する「人間の学」の創出をめざしています。この挑戦に積極的に加わろうとする志をもつ人、人類が直面する様々な課題に向きあう進取の精神をもつ人、持続的で創造的な取り組みを支える教養を身につけたいと考える人を本学部は求めます。

総合人間学部が入学を希望する人に求めるものは、高等学校の教育課程の教科・科目を広く修得することに加えて、その内容を活用する主体的な思考力・判断力・表現力、そして他者と協働しながら学ぶ態度です。

総合人間学部の入学者選抜は、京都大学の一般入試において、文系と理系の2つの募集区分を設け、多様な基礎的学力を測ります。また本学部独自の特色入試では、高等学校における学びの成果、基礎的学力とともに、文系と理系の総合的な思考力・表現力を評価します。

総合人間学部 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

総合人間学部では、新たな「人間の学」の創出を主軸として、卒業の認定に関する方針に示した目的を達成するために、多様な学問分野を網羅する教員陣のもとで、教養教育・基礎教育と専門教育を体系的に一体化したカリキュラムを提供します。比較的近い学問分野で構成する学系を複数設置し、各学系のコースツリーならびに個別の学問分野の履修モデルを提示することにより、カリキュラム体系の構成を具体的に示します。講義や演習等として行われる個々の授業科目の内容および、定期試験・レポート・平常点による評価方法の詳細については、シラバスに記載します。

総合人間学部には、以下の指針に従って自律的に学修することを求めます。

- (1) 文理にまたがる多様な教養・基礎科目、複数の学系の入門科目、複数の外国語科目等を幅広く学び、人間・文明・自然に対する幅広い知識と理解力を身につける。
- (2) ゼミ・演習等の少人数科目を履修し、教養・基礎から専門の領域にわたる知識と能力を濃密な議論の中で培うとともに、他者に自らの見解を表現するためのプレゼンテーション能力および対話能力を身につける。
- (3) 学年の進行とともに、自らの学問的関心に応じて一つの学系を主専攻として選択して系統的に学び、自らの知的な核となる専門性を修得する。
- (4) 主専攻とは異なる学問分野を副専攻として系統的に学び、自らの専門分野に捉われない柔軟で重層的な思考力を養う。
- (5) 主専攻の分野において指導教員を選び、そのもとで卒業論文・卒業研究に取り組む。学修成果は複数の教員により審査される。こうした研究過程を通して、専門性を深めるとともに、現代の諸問題の解決に挑戦する創造的姿勢と持続力を育む。

総合人間学部 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

総合人間学部は、人間と文明と自然との新たな結びつきを見出す「人間の学」の創出を目指しています。また、この学問的追究を通して、幅広い視野から創造的かつ持続的に現代の諸問題と向き合い、コミュニケーション能力やリーダーシップを発揮する人を育成することを目的としています。これを達成するため、以下の点に到達した者に総合人間学部学士号を授与します。

- (1) 総合人間学部が提供する学際的な学問の場において、人文科学・社会科学・自然科学を横断する幅広い知識と教養を身につけていること。
- (2) 他者や異文化に対する理解を深めた上で、自らの見解を形成し、それを豊かに表現するプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ならびにリーダーシップを培っていること。
- (3) 多様な学問分野を学ぶ中で、自らの知的な核となる特定の分野を選択し、その理解を深めていること。
- (4) 主たる専門分野とは異なる、もう一つの分野も重点的に学ぶことによって、人間・文明・自然に対する、多角的な視点や柔軟な発想力を培っていること。
- (5) 卒業論文・卒業研究において、問題の設定からその解決方法の提示に至る研究過程に取り組み、一定の成果を上げていること。

● 沿 革

1894 (明治27) 年	9月	第三高等学校開校
1987 (明治30) 年	6月	京都帝国大学創設
1949 (昭和24) 年	5月	新制京都大学設置
	5月	第三高等学校が京都大学所轄へ
	8月	分校設置
1950 (昭和25) 年	3月	第三高等学校を廃止 (以後京都大学分校と称せられる)
1954 (昭和29) 年	3月	分校を教養部と改称 (学内措置による改称)
1963 (昭和38) 年	4月	文部省令により教養部設置 (分校から教養部へ正式に改称)
1977 (昭和52) 年	5月	教養部に教養部改善検討委員会設置
1991 (平成 3) 年	4月	大学院人間・環境学研究科設置 (1専攻)
		人間・環境学専攻 (第1専攻) 開設
1992 (平成 4) 年	10月	総合人間学部設置 (4学科)
		人間学科、国際文化学科、基礎科学科、自然環境学科を開設
	10月	人間・環境学研究科 文化・地域環境学専攻設置 (第2専攻)
1993 (平成 5) 年	3月	教養部廃止
	4月	人間・環境学専攻 博士後期課程設置
	4月	総合人間学部第1期生入学
1994 (平成 6) 年	6月	高等教育教授システム開発センター設置
1995 (平成 7) 年	4月	文化・地域環境学専攻 博士後期課程設置
1996 (平成 8) 年	3月	人間・環境学研究科棟竣工
	4月	アフリカ地域研究専攻設置
1997 (平成 9) 年	4月	人間・環境学研究科 環境関連研究専攻設置 (第3専攻)
1998 (平成10) 年	4月	大学院アジア・アフリカ地域研究研究科設置に伴い、アフリカ地域研究専攻及び東南アジア地域研究講座を移管
1999 (平成11) 年	4月	環境関連研究専攻 博士後期課程設置
2002 (平成14) 年	4月	大学院地球環境学舎・学舎設置
2003 (平成15) 年	4月	総合人間学部との一体化に伴う研究科の改組により、共生人間学専攻、共生文明学専攻、関連環境学専攻を設置
	4月	総合人間学部の4学科を廃止し、総合人間学科一学科に改組
		人間科学系、認知情報学系、国際文明学系、文化環境学系、自然科学系を設置
2003 (平成15) 年	4月	高等教育研究開発推進機構設置
	4月	高等教育研究開発推進センター設置
	4月	高等教育教授システム開発センター廃止
2004 (平成16) 年	4月	国立大学法人京都大学設立
2007 (平成19) 年	4月	こころの未来研究センター設置
2008 (平成20) 年	4月	人間・環境学研究科 学際教育研究部設置
2013 (平成25) 年	4月	高等教育研究開発推進機構廃止
	4月	国際高等教育院設置
	4月	事務組織改編
2014 (平成26) 年	4月	国際高等教育院附属国際学術言語教育センター設置
	4月	「人間・環境学研究科総合人間学部図書館」から「吉田南総合図書館」に改組

歴代総合人間学部長・人間・環境学研究科長

総合人間学部長

1992(平成 4)年10月1日～1993(平成 5)年 3月31日	木下 富雄
1993(平成 5)年 4月1日～1996(平成 8)年 3月31日	児嶋 眞平
1996(平成 8)年 4月1日～1998(平成10)年 3月31日	三好 郁朗
1998(平成10)年 4月1日～2001(平成13)年 3月31日	林 哲介
2001(平成13)年 4月1日～2003(平成15)年 3月31日	宮本 盛太郎

人間・環境学研究科長

1991(平成 3)年 4月1日～1992(平成 3)年 9月30日	* 西島 安則
1992(平成 3)年10月1日～1993(平成 5)年 9月30日	竹市 明弘
1993(平成 5)年10月1日～1997(平成 9)年 9月30日	足利 健亮
1997(平成 9)年10月1日～2001(平成13)年 3月31日	豊島 喜則
2001(平成13)年 4月1日～2003(平成15)年 3月31日	江島 義道

* 研究科長事務取扱

人間・環境学研究科長・総合人間学部長

2003(平成15)年 4月1日～2004(平成16)年 3月31日	江島 義道
2004(平成16)年 4月1日～2007(平成19)年 3月31日	富田 博之
2007(平成19)年 4月1日～2010(平成22)年 3月31日	堀 智孝
2010(平成22)年 4月1日～2014(平成26)年 3月31日	富田 恭彦
2014(平成26)年 4月1日～2014(平成26)年 9月30日	杉万 俊夫
2014(平成26)年10月1日～2016(平成28)年 3月31日	高橋 由典
2016(平成28)年 4月1日～	杉山 雅人

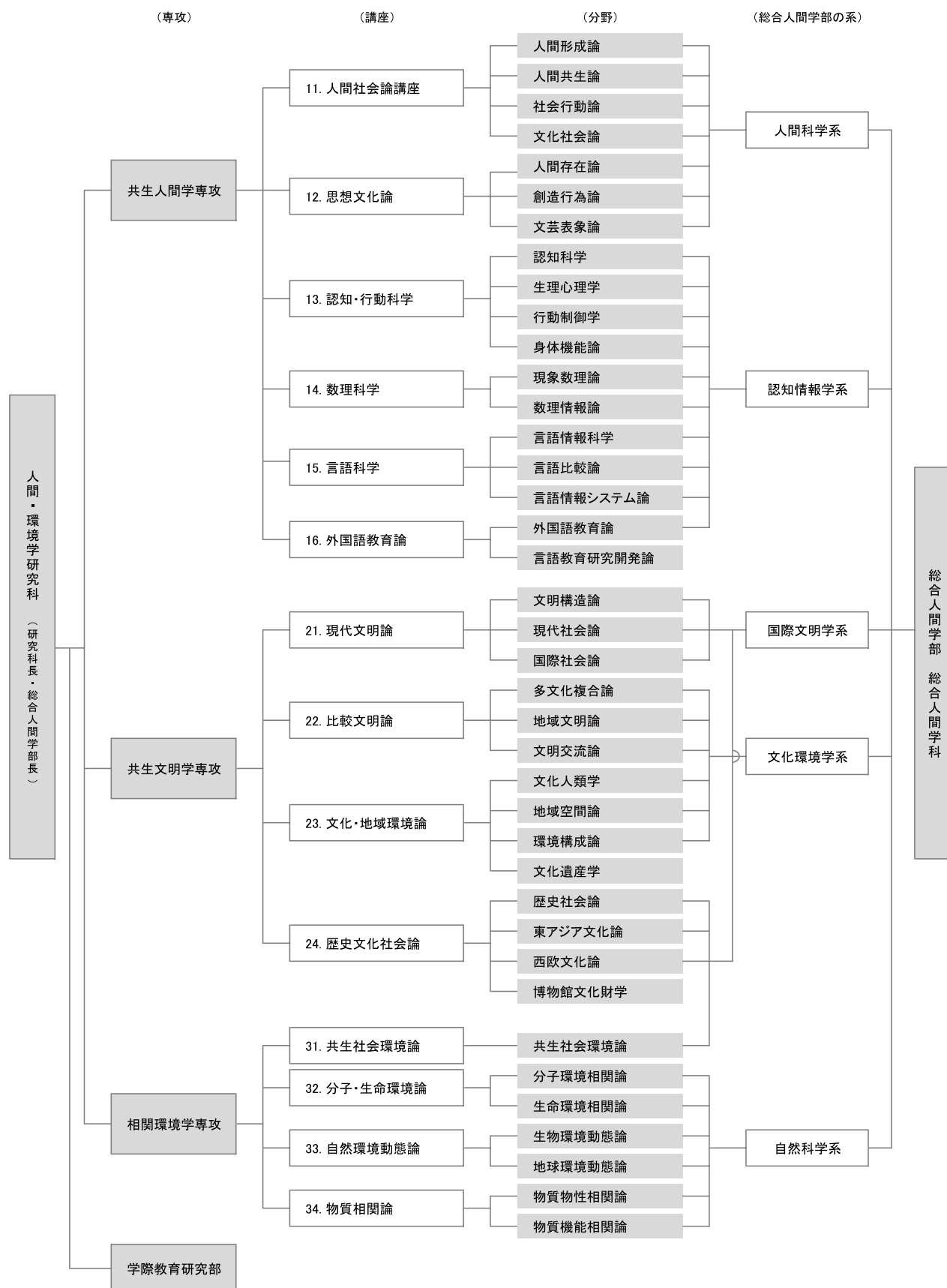


研究教育体制

1. 研究教育体制

【資料 1-1】研究教育組織

(平成27年4月1日現在)



【資料 1-2】他部局ならびに学外諸機関との協力体制

(平成 28 年 4 月 1 日現在)

区分	部局・機関名	人間・環境学研究科					総合人間学部			
		人数					人数			学系(関係)
		併任	流動	協力	客員	連携	併任	流動	協力	
学内他部局	大学院	情報学研究科						1		認知情報学系(認知・行動科学)(1)
		生命科学研究科						2		自然科学系(生物化学)(2)
		地球環境学堂・地球環境学舎	7					7		文化環境学系(文化・地域環境論)(1)
										国際文明学系(社会相関論)(1)
										自然科学系(化学・物質科学)(2)
	附置研究所	人文科学研究所		2						自然科学系(生物科学)(3)
		ウイルス研究所								国際文明学系(社会相関論)(1)
		附属感染症モデル研究センター		1						
	教育研究施設等	学術情報メディアセンター		2				1		認知情報学系(言語科学)(1)
		放射線生物研究センター		2						
		こころの未来研究センター		3				1		人間科学系(社会行動論)(1)
	教育院等	国際高等教育院	6					6		人間科学系(人間形成論)(1)
										人間科学系(文化社会論)(1)
		国際高等教育院附属国際学術言語教育センター		3						人間科学系(人間存在論)(1)
										認知情報学系(認知・行動科学)(1)
学外機関	客員	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所			5					国際文明学系(歴史文化社会論)(1)
		独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館			4					自然科学系(生物科学)(1)
	連携	独立行政法人情報通信研究機構未来 ICT 研究所				1				
	合計		6	7	21	9	1	6	7	6

注) () 内の数字は講座内、学系内の人数

【資料 1-3】人間・環境学研究科 教員構成

併任教員 流動教員 協力教員 客員教員 学外非常勤講師 総合人間学部兼任教員 平成 28 年 4 月 1 日現在

大学院	学部	講座名	分野名	教授	准教授	講師	助教
共生人間学専攻	人間科学系	11 人間社会論	人間形成論	小山 静子 ^併	大倉 得史 倉石 一郎 松本 卓也		
			人間共生論	連携機関：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所			
			社会行動論	吉田 純 杉万 俊夫 カール・ベッカー ^協	永田 素彦 柴田 悠		
		12 思想文化論	文化社会論	田邊 玲子 ^併 松田 英男 多賀 茂	木下 千花		
			人間存在論	富田 恭彦 佐藤 義之 ^併 安部 浩	戸田 剛文		
			創造行為論	岡田 温司	森山 智成 武田 宙也		
	認知情報学系	13 認知・行動科学	文芸表象論	水野 尚之 廣野由美子 奥田 敏広	小島 基洋		
			認知科学	齋木 潤 小村 豊 ^協	月浦 崇 内田由紀子 ^協 (修士課程担当)		山本 洋紀
			生理心理学	宮内 哲 ^客 連携機関：国立研究開発法人情報通信研究機構 未来 ICT 研究所			
		14 数理科学	行動制御学	石原 昭彦 神崎 素樹	久代 恵介 田中 真介 ^協		
			身体機能論	林 達也 ^併	船曳 康子		
			現象数理論	上木 直昌 清水 扇丈 足立 匡義	木坂 正史		
	言語科学系	15 言語科学	数理情報論	立木 秀樹 日置 尋久	櫻川 貴司	ディブレクト, マシュージョセフ(特定講師)	
			言語情報科学	東郷 雄二 藤田 耕司 谷口 一美			
			言語比較論	齋藤 治之 服部 文昭 河崎 靖 増辻 正剛 ^協	南條 浩輝 ^協		
		16 外国語教育論	言語情報システム論	連携機関：独立行政法人情報通信研究機構 ユニバーサルコミュニケーション研究所			
			外国語教育論	西山 教行	中森 誉之 ピーターソン, マーク	藤田 糸子	
			言語教育研究開発論	田地野 彰 ^協	スチュワート,ティモシー ^協 (修士課程担当) ダルスキー,デビッド ^協 塚原信行 ^協 高橋 幸 ^協 金丸敏幸 ^協		
共生文学専攻	国際文学系	21 現代文明論	文明構造論	神谷之 康 ^協		細川 浩 ^協	
			現代社会論	江田 憲治 大川 勇 細見 和之	那須 耕介		
			国際社会論	大黒 弘慈 前川 玲子 林優 ブライアン	柴山 桂太 見平 典 齋藤 嘉臣		編飼 大介
	文化環境学系	22 比較文明論	多文化複合論	岡 真理 小倉 紀蔵	勝又 直也		
			地域文明論	赤松 紀彦 太田 出			
			文明交流論	稲垣 直樹 塩塚秀一郎			
		23 文化・地域環境論	文化人類学	風間 計博 田中 雅一 ^協	岩谷彩子 ^流 石井 美保 ^協		
			地域空間論	小島 泰雄 小方 登	山村 亜希		
			環境構成論	増井 正哉 中嶋 節子			藤原 学
	国際文学系	24 歴史文化社会論	文化遺産学	玉田 芳英 ^客 高妻 洋成 ^客 尾野 善裕 ^客	馬場 基 ^客 山崎 健 ^客	^客 = 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所	
			歴史社会論	西山 良平 元木 泰雄 合田 昌史		バツ, バウグイ (特定講師)	
			東アジア文化論	阿辻 哲次 道坂 昭廣 辻 正博 須田 千里	佐野 宏 長谷川千尋		
相関環境学専攻	自然科学系	31 共生社会環境論	西欧文化論	水野 真理 高谷 修 桂山 康司 ^併	池田 寛子		
			博物館文化財学	山本 英男 ^客 宮川 禎一 ^客	大原 嘉豊 ^客 山川 暁 ^客	^客 = 独立行政法人国立文化財機構 京都国立博物館	
		32 分子・生命環境論	分子社会環境論	浅野 耕太 小畑 史子 佐野 亘 ^流 宇佐美 誠 ^協 (授業担当)			
			分子環境相関論	田村 類 津江 広人 小松 直樹 藤田 健一			高橋 弘樹
		33 自然環境動態論	生命環境相関論	宮下 英明 ^流 川本 卓男 ^協 高田 穰 ^協	土屋 徹 ^流 小林 純也 ^協		神川 龍馬 ^流
			生物環境動態論	加藤 真 瀬戸口浩彰 ^併 市岡 孝明	西川 完途 三浦 智行 ^協		幡野 恭子 東樹 宏和 阪口 翔太
		34 物質相関論	地球環境動態論	鎌田 浩毅 阪上 雅昭 石川 尚人 酒井 敏			金子 克哉 加藤 護 坂本 陽介 ^流
			物質物性相関論	杉山 雅人 梶井 克純 ^流 小本曾 哲			小山田 明 渡邊 雅之 佐野 光貞 小西 隆士
			物質機能相関論	宮本 嘉久 舟橋 春彦 ^協	藤原 直樹 木下 俊哉 森成 隆夫 吉田 鉄平		大槻 太毅 上田 純平 山本 旭
				内本 喜晴 田部勢津久 吉田 寿雄 加藤 立久 ^協	戸崎 充男 ^協 吉村 成弘 ^協		

の分野については、学生の募集は行わない

学際教育研究部	
部 長 (兼) 中嶋 節子	教 授 (兼) 阪上 雅昭 准教授 (兼) 吉積 巳貴 (学際融合教育研究推進センター・森里海連環学教育ユニット特定准教授) (授業担当) (兼) グルーバー, ステファン (白眉センター特定准教授) 助 教 (兼) カシヤニ, サラ (白眉センター特定助教) 山本健太郎 (特定助教)

外国人教師	ドイツ語：トラウデン, ディーター フランス語：メニル, エヴリーヌ
-------	------------------------------------

【資料 1-4】総合人間学部 教員構成

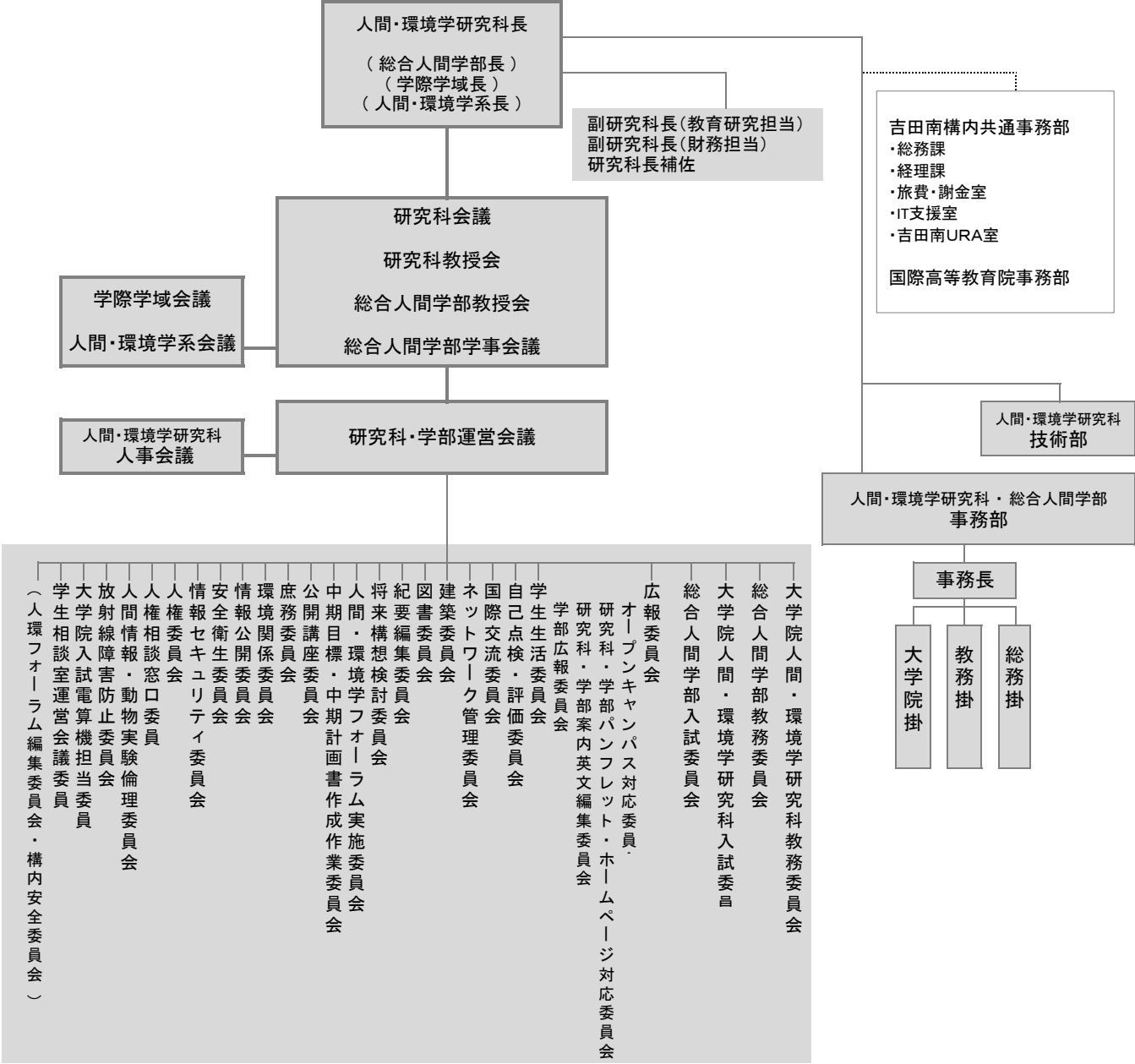
併任教員(人間・環境学研究所) 流動教員(人間・環境学研究所) 協力教員 平成 28 年 4 月 1 日現在

学系	関係名 (授業科目グループ)	教授	准教授	講師	助教
人間科学系	人間形成論	小山 静子 ^併	大倉 得史 倉石 一郎 松本 卓也		
	社会行動論	杉万 俊夫 吉田 純 カール・ベッカー ^協	永田 素彦 柴田 悠		
	文化社会論	田邊 玲子 ^併 松田 英男 多賀 茂	木下 千花		
	人間存在論	富田 恭彦 佐藤 義之 ^併 安部 浩	戸田 剛文		
	創造行為論	岡田 温司	栗山 智成 武田 宙也		
	文芸表象論	水野 尚之 廣野由美子 奥田 敏広	小島 基洋		
認知情報学系	認知・行動科学	齋木 潤 石原 昭彦 林 達也 ^併 神崎 素樹 神谷 之康 ^協	月浦 崇 久代 恵介 船曳 康子	細川 浩 ^協	山本 洋紀
	数理情報論	立木 秀樹 上木 直昌 日置 尋久 清水 扇丈 足立 匡義	木坂 正史 櫻川 貴司		
	言語科学	東郷 雄二 齋藤 治之 服部 文昭 藤田 耕司 河崎 靖 壇辻 正剛 ^協 谷口 一美			
	外国語教育論	西山 教行	中森 誉之 ピーターソン, マーク		
国際文明学系	社会相関論	江田 憲治 大川 勇 前川 玲子 浅野 耕太 林 優 ブライアン 小畑 史子 大黒 弘慈 佐野 亘 ^流 細見 和之 宇佐美 誠 ^協	見平 典 那須 耕介 齋藤 嘉臣 柴山 桂太		鶴飼 大介
	歴史文化社会論	西山 良平 元木 泰雄 阿辻 哲次 須田 千里 水野 眞理 道坂 昭廣 合田 昌史 辻 正博 高谷 修 桂山 康司 ^併	佐野 宏 長谷川千尋 池田 寛子		
文化環境学系	比較文明論	稲垣 直樹 赤松 紀彦 岡 眞理 小倉 紀蔵 塩塚秀一郎 太田 出	勝又 直也		
	文化・地域環境論	小方 登 小島 泰雄 風間 計博 中嶋 節子 増井 正哉	岩谷 彩子 ^流 山村 亜希		藤原 学
自然科学系	(物理科学)	阪上 雅昭 宮本 嘉久	藤原 直樹 木下 俊哉 森成 隆夫 吉田 鉄平		小山田 明 渡邊 雅之 佐野 光貞 小西 隆士 大槻 太毅
	(化学・物質科学)	内本 喜晴 田村 類 杉山 雅人 田部勢津久 梶井 克純 ^流 津江 広人 吉田 寿雄 藤田 健一 小松 直樹			高橋 弘樹 上田 純平 坂本 陽介 ^流 山本 旭
	(生物科学)	加藤 眞 瀬戸口浩彰 ^併 宮下 英明 ^流 市岡 孝朗 千坂 修 ^協	西川 完途 土屋 徹 ^流 吉村 成弘 ^協		幡野 恭子 東樹 宏和 神川 龍馬 ^流 阪口 翔太
	(地球科学)	鎌田 浩毅 石川 尚人 酒井 敏 小木曾 哲			金子 克哉 加藤 護

・自然科学系の「関係名」欄は専門分野名を表す。

【資料 1-5】管理運営組織

(平成28年4月1日現在)



【資料 1-6】委員会組織

人間・環境学研究科大学院教務委員会 1) 教科の基準に関すること 2) 教科の教育的方策に関すること 3) 授業の総括的計画の編成及び実施に関すること 4) 成績評価についての基準の設定および成績表の点検に関すること 5) 履修指導に関すること 6) その他大学院学生の教務全般に関すること	総合人間学部教務委員会 1) 教科の基準に関すること 2) 教科の教育的方策に関すること 3) 授業の総括的計画の編成及び実施に関すること 4) 成績評価についての基準の設定および成績表の点検に関すること 5) 履修指導に関すること 6) 卒業判定資料に関すること 7) その他学部学生の教務全般に関すること
人間・環境学研究科入試委員会 1) 修士課程及び博士後期課程編入学試験募集要項案の作成に関すること 2) 入学試験の実施に関すること 3) 修士課程第1次試験合格者の決定に関すること 4) 修士課程及び博士後期課程編入学試験合格者の内定に関すること 5) 博士後期課程進学者の内定に関すること 6) その他前各号の目的に関すること	総合人間学部入試委員会 1) 一般入試に関すること 2) 特色入試に関すること 3) 転学部、編入学等に関すること 4) 入学者選抜方法の調査・研究に関すること 5) その他前各号の目的に関連すること
広報委員会 1) 部局広報の編集・発行に関すること 2) オープンキャンパスの対応に関すること 3) 部局案内パンフレットの編集・発行に関すること 4) ホームページの対応に関すること 5) 国際交流に関する広報活動に関すること 6) その他、部局の広報に関すること	学生生活委員会 1) 大学院学生及び学部学生の生活と修学に関すること 2) 大学院学生及び学部学生の厚生補導に関すること 3) 大学院学生及び学部学生の課外活動に関すること 4) 授業料の免除に関すること 5) 日本学生支援機構奨学生に関すること 6) 大学院学生及び学部学生の進路に関すること 7) 大学院学生及び学部学生の集会及び掲示に関すること 8) その他前各号の目的に関すること
自己点検・評価委員会 1) 自己点検・評価の基本方針及び実施に関すること 2) 自己点検・評価の事項及び項目に関すること 3) 自己点検・評価の報告書の作成および公表に関すること 4) その他自己点検・評価に関すること	国際交流委員会 1) 国際交流に関すること 2) 外国人留学生に関すること 3) 海外派遣に関すること 4) その他国際交流に関すること
ネットワーク管理委員会 1) 総合ネットワーク関連機器の管理・運営に関すること 2) 情報関連機器の管理・運営に関すること 3) 視聴覚関連機器の管理・運営に関すること 4) その他ネットワーク管理に関連すること	建築委員会 1) 研究科の建築計画の立案、実施に関すること 2) 敷地利用に関すること 3) 施設の管理・整備に関すること 4) その他前各号の目的に関すること
図書委員会 1) 図書など文献・資料の収集、整理及び保管に関すること 2) 図書など文献・資料の予算配分に関すること 3) 図書など文献・資料の利用に関すること 4) 参考調査、目録刊行等、情報に関連すること 5) その他図書に関すること	紀要編集委員会 1) 紀要の発行計画に関すること 2) 紀要の編集に関すること 3) 紀要の配布に関すること 4) その他前各号の目的に関すること
将来構想検討委員会 研究科および学部における中・長期的な将来構想計画（人事の配置を含む）の企画、立案に関する事項	人間・環境学フォーラム実施委員会 1) 人間・環境学フォーラムの実施に関すること 2) その他人間・環境学フォーラム実施に関し必要なこと
人環フォーラム編集委員会 1) 人環フォーラムの発行計画に関すること 2) 人環フォーラムの編集に関すること 3) 人環フォーラムの配布に関すること 4) その他前各号の目的に関すること	自己点検・評価方法検討委員会 1) 自己点検・評価方法の検討に関すること 2) 外部評価への対応策の検討に関すること 3) その他前各号の目的に関すること
中期目標・中期計画書作成作業委員会 研究科及び学部における中期目標・中期計画の検討、計画書の作成に関すること	公開講座委員会 研究科における公開講座の企画立案及び実施に関する事項
庶務委員会 1) 退職記念送別会、及び退職教員記念講義等の実施に関すること 2) 樟友会の実施に関すること 3) 研究科教員基金の処理に関すること 4) その他研究科の庶務全般に関すること	環境関係委員会 1) 環境・衛生の保全に関すること（安全衛生委員会の所掌事項を除く） 2) 労働災害防止など安全対策に関すること（安全衛生委員会の所掌事項を除く） 3) 実験排水・廃棄物等の管理及び処理に関すること 4) その他環境保全と衛生に関連すること
情報公開委員会 京都大学における規程に定める法人文書の開示請求がなされた場合、当該法人文書の開示（部分開示を含む。）または不開示についての審議	安全衛生委員会 研究科における安全衛生管理に関する必要な事項
情報セキュリティ委員会 1) 情報セキュリティ対策の指導及び監査に関すること 2) 情報セキュリティポリシー策定評価、見直し及び実施に関すること 3) コンピュータ不正アクセス発生時における調査及び対策に関すること	人権委員会 人権問題等の防止に関し必要な事項及び人権問題等が生じた場合の対応
人間情報・動物実験倫理委員会 1) 実験責任者から申請された実験計画に関すること 2) 人間情報及び動物実験に必要な施設及び設備に関すること 3) 人間情報及び動物実験に伴う衛生・安全管理に関すること 4) 実験動物の適切な飼育と使用の監視に関すること 5) その他委員会が必要と認めること	化学物質管理委員会 研究科における化学物質の管理に関する必要な事項
人間・環境学研究科／総合人間学部学生相談室 1) 研究科の大学院学生及び総合人間学部の学部学生の学生生活上の相談に応じ指導助言を行うこと。 2) 学生生活上の問題に係る啓発活動に関すること 3) その他学生相談に関すること	

【資料 1-7】教員数の推移

人間・環境学研究科

平成 23 年度	教授	准教授	講師	助教	合計	指導教員
基幹	75 (8) [2]	30 (1) [1]	2 (1)	19 (2)	126 (12) [3]	105 (9) [3]
流動	5	3		1	9	8
協力	12 [1]	4 ^{*1} [1] ^{*1}			16 ^{*1} [2] ^{*1}	16 ^{*1} [2] ^{*1}
客員	7	5			12	12
合計	99 (8) [3]	42 ^{*1} (1) [2] ^{*1}	2 (1)	20 (2)	163 ^{*1} (12) [5] ^{*1}	141 ^{*1} (9) [5] ^{*1}

^{*1} 修士課程担当教員 1 名を含む

注) ・指導教員数は、教授・准教授の合計人数を示す。

・ () 女性教員、[] 外国籍教員、いずれも内数。

総合人間学部

平成 23 年度	教授	准教授	講師	助教	合計	指導教員
基幹	75 (8) [2]	30 (1) [1]	1	19 (2)	125 (11) [3]	106 (9) [3]
流動	5	3		1	9	8
協力	8 [1]	2 (1)	1		11 (1) [1]	11 (1) [1]
合計	88 (8) [3]	35 (2) [1]	2	20 (2)	145 (12) [4]	125 (10) [4]

注) ・指導教員数は、教授・准教授、講師の合計人数を示す。

・ () 女性教員、[] 外国籍教員、いずれも内数。

平成 24 年度	教授	准教授	講師	助教	合計	指導教員
基幹	75 (7) [2]	29 (2) [1]	2 (1)	18 (2)	124 (12) [3]	104 (9) [3]
流動	5	3		2	10	8
協力	12 [1]	5 ^{*2} (1) ^{*1} [1] ^{*1}			17 ^{*2} (1) ^{*1} [2] ^{*1}	17 ^{*2} (1) ^{*1} [2] ^{*1}
客員	7	4			11	11
合計	99 (7) [3]	41 ^{*2} (3) ^{*1} [2] ^{*1}	2 (1)	20 (2)	162 ^{*2} (13) ^{*1} [5] ^{*1}	140 ^{*2} (10) ^{*1} [5] ^{*1}

^{*1} 修士課程担当教員 1 名を含む

^{*2} 修士課程担当教員 2 名を含む

注) ・指導教員数は、教授・准教授の合計人数を示す。

・ () 女性教員、[] 外国籍教員、いずれも内数。

平成 24 年度	教授	准教授	講師	助教	合計	指導教員
基幹	75 (7) [2]	29 (2) [1]	1	18 (2)	123 (11) [3]	105 (9) [3]
流動	5	3		2	10	8
協力	7 [1]	2 (1)	1		10 (1) [1]	10 (1) [1]
合計	87 (7) [3]	34 (3) [1]	2	20 (2)	143 (12) [4]	123 (10) [4]

注) ・指導教員数は、教授・准教授、講師の合計人数を示す。

・ () 女性教員、[] 外国籍教員、いずれも内数。

平成 25 年度	教授	准教授	講師	助教	合計	指導教員
基幹	67 (7) [1]	30 (3) [2]	1 (1)	20 (3)	118 (14) [3]	97 (10) [3]
流動	5	3		2	10	8
併任	6				6	6
協力	12 [1]	7 ^{*2} (2) ^{*1} [1] ^{*1}			19 ^{*2} (2) ^{*1} [2] ^{*1}	19 ^{*2} (2) ^{*1} [2] ^{*1}
客員	8	4			12	12
合計	98 (7) [2]	44 ^{*2} (5) ^{*1} [3] ^{*1}	1 (1)	22 (3)	165 ^{*2} (16) ^{*1} [5] ^{*1}	142 ^{*2} (12) ^{*1} [5] ^{*1}

^{*1} 修士課程担当教員 1 名を含む

^{*2} 修士課程担当教員 2 名を含む

注) ・指導教員数は、教授・准教授の合計人数を示す。

・ () 女性教員、[] 外国籍教員、いずれも内数。

平成 25 年度	教授	准教授	講師	助教	合計	指導教員
基幹	67 (7) [1]	30 (3) [2]		20 (3)	117 (13) [3]	97 (10) [3]
流動	5	3		2	10	8
併任	6				6	6
協力	7 [1]	2	1		10 [1]	10 [1]
合計	85 (7) [2]	35 (3) [2]	1	22 (3)	143 (13) [4]	121 (10) [4]

注) ・指導教員数は、教授・准教授、講師の合計人数を示す。

・ () 女性教員、[] 外国籍教員、いずれも内数。

人間・環境学研究科

平成 26 年度	教授	准教授	講師	助教	合計	指導教員
基幹	69 (7) [1]	34 (4) [2]	1 (1)	17 (3)	121 (15) [3]	103 (11) [3]
流動	3	2		2	7	5
併任	6				6	6
協力	11 [1]	6 ^{*2} (2) ^{*1} [1] ^{*1}			17 ^{*2} (2) ^{*1} [2] ^{*1}	17 ^{*2} (2) ^{*1} [2] ^{*1}
客員	6	3			9	9
合計	95 (7) [2]	45 ^{*2} (6) ^{*1} [3] ^{*1}	1 (1)	19 (3)	160 ^{*2} (17) ^{*1} [5] ^{*1}	140 ^{*2} (13) ^{*1} [5] ^{*1}

*1 修士課程担当教員 1 名を含む

*2 修士課程担当教員 2 名を含む

注) ・指導教員数は、教授・准教授の合計人数を示す。

・ () 女性教員、[] 外国籍教員、いずれも内数。

総合人間学部

平成 26 年度	教授	准教授	講師	助教	合計	指導教員
基幹	69 (7) [1]	34 (4) [2]		17 (3)	120 (14) [3]	103 (11) [3]
流動	3	2		2	7	5
併任	6				6	6
協力	5 [1]	1	1		7 [1]	7 [1]
合計	83 (7) [2]	37 (4) [2]	1	19 (3)	140 (14) [4]	121 (11) [4]

注) ・指導教員数は、教授・准教授、講師の合計人数を示す。

・ () 女性教員、[] 外国籍教員、いずれも内数。

平成 27 年度	教授	准教授	講師	助教	合計	指導教員
基幹	71 (7) [1]	30 (4) [1]	1 (1)	15 (2)	117 (14) [2]	101 (11) [2]
流動	3	2 (1)		2	7 (1)	5 (1)
併任	6 (2)				6 (2)	6 (2)
協力	10 [1]	11 ^{*2} (3) ^{*1} [2] ^{*1}			21 ^{*2} (3) ^{*1} [3] ^{*1}	21 ^{*2} (3) ^{*1} [3] ^{*1}
客員	6	4 (1)			10 (1)	10 (1)
合計	96 (9) [2]	47 ^{*2} (9) ^{*1} [3] ^{*1}	1 (1)	17 (2)	161 ^{*2} (21) ^{*1} [5] ^{*1}	143 ^{*2} (18) ^{*1} [5] ^{*1}

*1 修士課程担当教員 1 名を含む

*2 修士課程担当教員 2 名を含む

注) ・指導教員数は、教授・准教授の合計人数を示す。

・ () 女性教員、[] 外国籍教員、いずれも内数。

平成 27 年度	教授	准教授	講師	助教	合計	指導教員
基幹	71 (7) [1]	30 (4) [1]		15 (2)	116 (13) [2]	101 (11) [2]
流動	3	2 (1)		2	7 (1)	5 (1)
併任	6 (2)				6 (2)	6 (2)
協力	5 [1]	1	1		7 [1]	7 [1]
合計	85 (9) [2]	33 (5) [1]	1	17 (2)	136 (16) [3]	119 (14) [3]

注) ・指導教員数は、教授・准教授、講師の合計人数を示す。

・ () 女性教員、[] 外国籍教員、いずれも内数。

平成 28 年度	教授	准教授	講師	助教	合計	指導教員
基幹	69 (8) [1]	31 (5) [1]	1 (1)	16 (1)	117 (15) [2]	100 (13) [2]
流動	3	2 (1)		2	7 (1)	5 (1)
併任	6 (2)				6 (2)	6 (2)
協力	9 [1]	12 ^{*2} (3) ^{*1} [2] ^{*1}			21 ^{*2} (3) ^{*1} [3] ^{*1}	21 ^{*2} (3) ^{*1} [3] ^{*1}
客員	5	4 (1)			9 (1)	9 (1)
合計	92 (10) [2]	49 ^{*2} (10) ^{*1} [3] ^{*1}	1 (1)	18 (1)	160 ^{*2} (22) ^{*1} [5] ^{*1}	141 ^{*2} (20) ^{*1} [5] ^{*1}

*1 修士課程担当教員 1 名を含む

*2 修士課程担当教員 2 名を含む

注) ・指導教員数は、教授・准教授の合計人数を示す。

・ () 女性教員、[] 外国籍教員、いずれも内数。

平成 28 年度	教授	准教授	講師	助教	合計	指導教員
基幹	69 (8) [1]	31 (5) [1]		16 (1)	116 (14) [2]	100 (13) [2]
流動	3	2 (1)		2	7 (1)	5 (1)
併任	6 (2)				6 (2)	6 (2)
協力	4 [1]	1	1		6 [1]	6 [1]
合計	82 (10) [2]	34 (6) [1]	1	18 (1)	135 (17) [3]	117 (16) [3]

注) ・指導教員数は、教授・准教授、講師の合計人数を示す。

・ () 女性教員、[] 外国籍教員、いずれも内数。

【資料 1-8】教員の年齢・性別構成

(平成 26 年 5 月 1 日現在)

年齢階層	教授		准教授		講師		助教		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
21 ～ 30									0	0
31 ～ 40			8	2			5	2	13	4
41 ～ 50	6	1	19	2			6		31	3
51 ～ 60	34	5	3				2	1	39	6
61 ～ 70	22	1				1	1		23	2
小計	62	7	30	4	0	1	14	3	106	15
合計	69		34		1		17		121	

(平成 27 年 5 月 1 日現在)

年齢階層	教授		准教授		講師		助教		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
21 ～ 30									0	0
31 ～ 40			8	1			5	1	13	2
41 ～ 50	8	2	16	3			6		30	5
51 ～ 60	38	4	2				2	1	42	5
61 ～ 70	18	1				1			18	2
小計	64	7	26	4	0	1	13	2	103	14
合計	71		30		1		15		117	

(平成 28 年 5 月 1 日現在)

年齢階層	教授		准教授		講師		助教		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
21 ～ 30							2		2	0
31 ～ 40			6				4		10	0
41 ～ 50	10	2	18	5			7		35	7
51 ～ 60	36	4	2				2	1	40	5
61 ～ 70	15	2				1			15	3
小計	61	8	26	5	0	1	15	1	102	15
合計	69		31		1		16		117	

【資料 1-9】授業科目の担当状況

(平成 28 年度)

		開講授業数			専任教員の担当率 (%)
		専任教員担当 ^{*1}	非常勤講師担当	合計	
総合人間学部	人間科学系	86	7	93	92.5
	認知情報学系	78	3	81	96.3
	国際文明学系	114	12	126	90.5
	文化環境学系	55	3	58	94.8
	自然科学系	58	0	58	100.0
	合計	391	25	416	94.0
人間・環境学研究科 【修士課程】	共生人間学専攻	133	4	137	96.0
	共生文明学専攻	137	9	146	96.6
	相関環境学専攻	86	0	86	100.0
	合計	356	13	369	96.5

^{*1} 流動教員、協力教員、客員教員を含む

【資料 1-10】事務職員及び技術職員の配置状況

(平成 28 年 4 月 1 日現在)

組織名		常勤職員	非常勤職員
事務部	事務長	1	
	総務掛	2	14
	教務掛	3	3
	大学院掛	3	2
技術部		7	
合計		16	19



総合人間学部

2. 総合人間学部

【資料 2-1】学生数の推移（総合人間学部）

（各年度 5 月 1 日現在）

年度	男	女	計	指導教員数	教員 1 人当たり 学生数
23	382	181	563	125	4.50
24	404	178	582	123	4.73
25	412	175	587	121	4.81
26	418	163	581	121	4.80
27	420(1)	172	592	119	4.97
28	425(1)	167(1)	592	117	5.06

注) () 内の数字は留学生で内数。

【資料 2-2】入学状況（総合人間学部）

（一般入試）

年度	総合人間学部						学力検査区分別											
							文系						理系					
	募集 人員	志願者 数	受験者 数	合格者 数	入学者 数	入学 定員 充足率	募集 人員	志願者 数	受験者 数	合格者 数	入学者 数	入学 定員 充足率	募集 人員	志願者 数	受験者 数	合格者 数	入学者 数	入学 定員 充足率
23	120	467	452	128	128	1.06	65	262	251	69	69	1.06	55	205	201	59	59	1.07
24	120	437	403	127	127	1.05	65	256	226	69	69	1.06	55	181	177	58	58	1.05
25	120	439	415	125	125	1.04	65	227	227	68	68	1.04	55	212	188	57	57	1.03
26	120	454	394	124	124	1.03	65	207	202	67	67	1.03	55	247	192	57	57	1.03
27	120	412	401	124	124	1.03	65	231	226	67	67	1.03	55	181	175	57	57	1.03
28	115	518	398	119	119	1.03	62	283	215	65	65	1.04	53	235	183	54	54	1.01

（特色入試）

年度	総合人間学部					
	募集 人員	志願者 数	受験者 数	合格者 数	入学者 数	入学 定員 充足率
28	5	29	29	5	5	1.00

【資料 2-3】編入学生の受入状況（総合人間学部）

入学年度	志願者数	合格者数	入学者数	入学者の出身学部
23	4	4	1	理学部
24	3	0	0	
25	1	1	1	法学部
26	0	0	0	
27	1	1	1	法学部
28	0	0	0	

【資料 2-4】転学部への推移（総合人間学部）

年度	転入			転出				
	2 回生	3 回生	計	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	計
20	4	4	8	0	2	0	0	2
21	4	4	8	0	0	0	0	0
22	2	1	3	1	0	0	0	1
23	3	3	6	1	0	0	0	1
24	4	4	8	1	0	1	0	2
25	5	0	5	0	0	0	0	0
26	6	0	6	1	1	0	0	2
27	6	1	7	0	1	0	0	1
28	5	3	8	0	0	0	0	0
合計	39	20	59	4	4	1	0	9

注）転入の回生は、総合人間学部の受入年次を示す。転出の回生は、転出前の総合人間学部の年次を示す。

内訳

(平成 20 - 28 年度)

学部	転入			転出				
	2 回生	3 回生	計	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	計
文学部	5	2	7	1	1			2
教育学部			0		1			1
法学部	3	2	5	3	1			4
経済学部	2		2		1			1
理学部	6	3	9					0
医学部	4	1	5			1		1
薬学部	2		2					0
工学部	12	11	23					0
農学部	5	1	6					0
合計	39	20	59	4	4	1	0	9

注）転入の回生は、総合人間学部の受入年次を示す。転出の回生は、転出前の総合人間学部の年次を示す。

【資料 2-5】留年・休学・退学の状況（総合人間学部）

年度	23	24	25	26	27
留年者	55	67	71	67	81
休学者	26	29	37	35	36
退学者	2	3	7	7	3

注）・留年者、休学者については、各年度 5 月 1 日現在の人数
・退学者については、各年度末時点の人数

【資料 2-6】分属の状況

(人)

入学年度	23			24			25			26			27		
	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数
未分属*1	2		2	4	1	5	3		3	2		2	1		1
人間科学系	20	12	32	18	10	28	24	11	35	22	15	37	23	12	35
認知情報学系	20	12	32	25	8	33	25	10	35	35	13	48	28	5	33
国際文明学系	23	7	30	31	13	44	22	4	26	15	7	22	18	14	32
文化環境学系	12	5	17	8	6	14	5	10	15	4	4	8	9	5	14
自然科学系	16	3	19	6	2	8	14	3	17	9	3	12	8	3	11
合計	93	39	132	92	40	132	93	38	131	87	42	129	87	39	126

*1 学系への分属は 2 回生より行われる。

【資料 2-7】各学系の授業形態（総合人間学部）

（平成 28 年度）

学系名	区分	講義	演習・ゼミ	実習・実験	小計	合計
人間科学系	学部科目	45	72	1	118	171
	全学共通科目	41	12	0	53	
認知情報学系	学部科目	45	62	13	120	162
	全学共通科目	35	6	1	42	
国際文明学系	学部科目	98	95	0	193	222
	全学共通科目	16	13	0	29	
文化環境学系	学部科目	36	45	4	85	118
	全学共通科目	23	10	0	33	
自然科学系	学部科目	28	39 ^{*1}	0	67	129
	全学共通科目	51	7	4	62	

注)・各学系の主専攻表（別表を含む）に掲載されている授業科目数である

・学部特殊講義を含む

*1 自然科学系学部科目の「演習」には実験が含まれている

【資料 2-8】授業形態別履修者数（総合人間学部）

（平成 27 年度）

	科目コマ数	履修者数	平均履修者数
講義	160	3,703	23.1
演習	128	944	7.4
ゼミ	38	327	8.6
実験・実習	10	58	5.8
合計	336	5,032	

注)・講究・講読は演習に含まれる

・自然科学系学部科目の「演習」には実験が含まれている

【資料 2-9】総人ゼミの開講状況

年度	23	24	25	26	27
開講ゼミ数	8	8	6	7	8
受講者数	24	24	26	16	26

注) 総人ゼミは、平成 19 年度後期より開講された

【資料 2-10】他学部聴講の状況

部局名	23 年度		24 年度		25 年度		26 年度		27 年度	
	人数	単位数	人数	単位数	人数	単位数	人数	単位数	人数	単位数
文学部	32	182	23	176	32	167	34	222	36	197
教育学部	23	88	14	72	19	82	23	97	20	103
法学部	12	80	14	60	13	74	10	88	10	96
経済学部	27	152	21	132	33	154	32	226	27	190
理学部	20	106	26	138	20	114	21	148	24	124
医学部 (人間健康科学科)	5	13	0	0	1	1	2	4	3	8
薬学部	0	0	2	4	1	2	4	14	3	8
工学部	15	115	15	72	14	98	17	108	13	116
農学部	8	42	5	22	4	8	9	58	2	8
合計	142	778	120	676	137	700	152	965	138	850

※教育学部は教職科目の聴講を除く

【資料 2-11】単位互換制度の利用状況（総合人間学部）

人数(単位数)

大学名	年度	23	24	25	26	27	28
高麗大学(大韓民国)			1(6)				
延世大学(大韓民国)							1(27)
北京大学(中国)					1(12)		
復旦大学(中国)					1(4)		
香港大学(中国)							1(13)
シンガポール国立大学(シンガポール)			1(4)	1(4)			
カリフォルニア大学デービス校(アメリカ合衆国)				1(8)			
ハワイ大学(アメリカ合衆国)							1(18)
ペンシルベニア大学(アメリカ合衆国)					1(7)		
ワシントン大学(アメリカ合衆国)					1(2)		
ウィスコンシン大学(アメリカ合衆国)						1(21)	
コンコルディア大学(カナダ)			1(9)				
マギル大学(カナダ)							1(24)
アイルランド国立大学ダブリン校(アイルランド)							1(17)
マンチェスター大学(イギリス)		1(9)	1(10)				
サウサンプトン大学(イギリス)							1(9)
エディンバラ大学(イギリス)							1(10)
ウィーン大学(オーストリア)						1(2)	
ライデン大学(オランダ)						1(6)	
ハイデルベルク大学(ドイツ)		1(17)					
フンボルト大学(ドイツ)			1(23)				
ベルリン自由大学(ドイツ)						1(5)	
グルノーブル政治学院(フランス)							1(16)
ヘルシンキ大学(フィンランド)					1(12)		1(21)
ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)					1(14)		
オークランド大学(ニュージーランド)				1(15)		1(16)	
グアダラハラ大学(メキシコ)					1(11)		
SJC スタンフォード大学日本センター(日本) Stanford Program in Kyoto						1(2)	1(2)
計(人数)		2	5	3	7	6	10

注) 留学期間ではなく単位認定を行った年度である。

【資料 2-12】入学前既修得単位の認定状況（総合人間学部）

年度	23	24	25	26	27	28
認定学生数	0	3	3	0	1	1
認定単位数	0	78	66	0	28	38

【資料 2-13】成績評価の方法（総合人間学部）

(平成 27 年度)

学系	科目種類	科目数	評価項目 (%)								評価項目数 (%)			
			出席	授業態度	発表	レポート	期末 レポート レポート 試験	小テスト 課題	期末試験	その他	1	2	3	4 以上
人間科学系	講義	29	37.9	24.1	13.8	48.3	20.7	17.2	17.2	0.0	51.7	24.1	17.2	6.9
	ゼミ・演習・実習	51	58.8	76.5	51.0	27.5	21.6	9.8	5.9	0.0	5.9	49.0	37.3	7.8
認知情報学系	講義	27	22.2	22.2	0.0	40.7	14.8	18.5	44.4	0.0	22.2	55.6	22.2	0.0
	ゼミ・演習・実習	54	79.6	66.7	27.8	37.0	7.4	5.6	3.7	18.5	3.7	50.0	42.6	3.7
国際文明学系	講義	66	22.7	34.8	7.6	27.3	27.3	9.1	40.9	4.5	48.5	28.8	22.7	0.0
	ゼミ・演習・実習	47	48.9	83.0	74.5	23.4	8.5	10.6	10.6	2.1	6.4	34.0	53.2	6.4
文化環境学系	講義	27	33.3	48.1	7.4	29.6	63.0	25.9	7.4	0.0	22.2	40.7	37.0	0.0
	ゼミ・演習・実習	25	48.0	80.0	48.0	4.0	16.0	32.0	0.0	4.0	0.0	68.0	32.0	0.0
自然科学系	講義	20	75.0	15.0	5.0	45.0	5.0	15.0	50.0	0.0	20.0	50.0	30.0	0.0
	ゼミ・演習・実習	29	62.1	34.5	13.8	51.7	0.0	17.2	3.4	0.0	27.6	51.7	20.7	0.0
全体	講義	169	33.1	30.8	7.1	35.5	27.2	15.4	33.1	1.8	37.3	36.7	24.9	1.2
	ゼミ・演習・実習	206	61.2	69.9	44.7	29.6	11.2	12.6	5.3	5.8	7.8	48.5	39.3	4.4

注) ・平成 27 年度『総合人間学部便覧』より調査

・採用率は、各評価方法において、それを採用する科目数の全科目数に対する割合

【資料 2-14】全学共通科目の開講コマ数（平成 28 年度）

（平成 28 年 1 月現在）

提供部局		人文科学・ 社会科学系 科目群	自然・ 応用科学系 科目群	外国語 科目群	拡大科目群	現代社会適応 科目群	総計
総合人間学部	常勤	226	142	494	11	48	921
	非常勤	70	2	552	85	3	712
	小計	296	144	1,046	96	51	1,633
理学部・ 総合人間学部	常勤		281				281
	非常勤		70				70
	小計	0	351	0	0	0	351
その他	常勤	112	243	146	270	174	945
	非常勤			33		1	34
	小計	112	243	179	270	175	979
総計		408	738	1,225	366	226	2,963

注）・週コマ数で換算、通年科目はコマ数を 2 倍にしている
 ・提供部局別であるため、教員の所属とは異なる
 ・自然・応用科学系科目群には、物理学実験、基礎化学実験、地球科学実験を含む

【資料 2-15】標準修業年限内卒業率と「標準修業年限×1.5」年内卒業率（総合人間学部）

入学者数		標準修業年限内卒業率			「標準修業年限×1.25」年内卒業率			「標準修業年限×1.5」年内卒業率		
入学 年度	人数	卒業 年度	卒業 者数	卒業 率	卒業 年度	卒業 者数	卒業 率	卒業 年度	卒業 者数	卒業 率
17	123	20	90	73.2%	21	22	91.1%	22	5	95.1%
18	124	21	99	79.8%	22	17	93.5%	23	4	96.8%
19	124	22	98	79.0%	23	19	94.4%	24	6	99.2%
20	122	23	88	72.1%	24	24	91.8%	25	6	96.7%
21	124	24	89	71.8%	25	29	95.2%	26	3	97.6%
22	123	25	85	69.1%	26	30	93.5%	27	3	95.9%
23	128	26	76	59.4%	27	41	91.4%	28		
24	127	27	84	66.1%	28			29		

【資料 2-16】主専攻・副専攻の文理分布

卒業年度		24		25		26		27	
主専攻	副専攻	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
文系	文系	41	33.6%	51	39.8%	32	28.3%	51	38.6%
	理系	31	25.4%	27	21.1%	32	28.3%	36	27.3%
	小計	72	59.0%	78	60.9%	64	56.6%	87	65.9%
理系	文系	37	30.3%	34	26.6%	36	31.9%	29	22.0%
	理系	13	10.7%	16	12.5%	13	11.5%	16	12.1%
	小計	50	41.0%	50	39.1%	49	43.4%	45	34.1%
総計		122	100.0%	128	100.0%	113	100.0%	132	100.0%

【資料 2-17】資格取得状況（総合人間学部）

年度			22	23	24	25	26	27	
教員免許	中 学 一 種	社会	1		2				
		国語	1	1		1			
		英語	3		3		3	1	
		数学	2			1	3		
		理科	1					1	
		保健体育	1		1				
		小計(免許数)	1	5	2	6	6	6	
	高 校 一 種	地理歴史	2	1	1	3			1
		公民	2						
		国語	2	1		1		2	
		英語	3		7		4	1	
		数学	2	3	1	4	1	4	
		理科	1	1	2				
		保健体育	1		1				
		小計(免許数)	7	8	4	12	11	10	
		総計(免許数)	8	13	6	18	17	16	
	取得者数（人数）	6	8	4	12	7	10		
司書・学芸員	司書（免許数）	1	1		2	1			
	学芸員（免許数）	1	1	3	1	1			
	取得者数（人数）	2	1	4	3	0	2		

注) 平成 22 年度の高校数学(うち 1 件)、高校理科については、工学部を卒業後、総合人間学部を平成 22 年度に卒業

【資料 2-18】卒業生の進路（総合人間学部）

年度			23			24			25			26			27		
			男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計
卒業者数			69	42	111	77	45	122	80	48	128	81	32	113	91	41	132
進路別人数		人間・環境学研究科	23	10	33	19	13	32	27	6	33	30	6	36	24	9	33
		他大学大学院	12	7	19	12	2	14	7	3	10	4	3	7	10	5	15
		大学院進学(合計)	35	17	52	31	15	46	34	9	43	34	9	43	34	14	48
		他学部等へ入学	3	1	4	2	0	2	1	0	1	1	0	1	1	0	1
		就職	24	21	45	34	23	57	34	35	69	42	19	61	45	26	71
		上記以外	7	3	10	10	7	17	11	4	15	4	4	8	11	1	12
大学院進学率(%)			50.7	40.5	46.8	40.3	33.3	37.7	42.5	18.8	33.6	42.0	28.1	38.1	37.4	34.1	36.4
就職率(%)※1			34.8	50.0	40.5	44.2	51.1	46.7	42.5	72.9	53.9	51.9	59.4	54.0	49.5	63.4	53.8
就職希望者※2の就職率(%)※3			77.4	87.5	81.8	77.3	76.7	77.0	75.6	89.7	82.1	91.3	82.6	88.4	80.4	96.3	85.5

注) ・※1 就職率 = 就職者数 / 卒業者数

・※2 就職希望者 = 卒業者 - 大学院進学者 - 他学部等への入学者

・※3 就職希望者の就職率 = 就職者数 / 就職希望者数

【資料 2-19】就職状況（総合人間学部）

業種	年度	23		24		25		26		27		合計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
農業・林業・漁業				1								1
鉱業												0
建設業						2						2
製造業	食料品等			1	1	1	2		3		1	9
	繊維								1			1
	出版印刷					1	2	1		2	1	7
	化学工業					1	1	1	2		3	8
	鉄鋼業			1			1					2
	はん用・生産用・業務用機械器具						1	2	1			4
	電子部品・デバイス・電子回路							1		1		2
	電気・情報通信機械器具		1				2	1			1	5
	輸送用機械器具	1				2	1		1			5
	その他	1	1	4	1	1		2		6	3	19
	電気・ガス・水道業	1	1	1	2	2	1	1				9
情報通信・郵便業	情報通信業	7	1	9	4	7	6	13	3	14	9	73
	運輸業・郵便業	1	2	2	1	3		2		1		12
卸売・小売業	卸売業	2		5	2	2	2	6	1	4	1	25
	小売業	1				1		1				3
金融・保険業	銀行・証券	1	5	8	5	2	5	4	4	10	3	47
	保険	2		1	0					2		5
	その他											0
不動産・物品賃貸業	不動産業	1									2	3
	物品賃貸業		2									2
サービス業	医療・保健衛生				1							1
	法務									1		1
	教育・学習支援業	1	1		1	1		3		1		8
	他に分類されないサービス業（宗教・その他）							1				1
	その他（マスコミ関係含む）	2	1			3	4		1			11
	学術・開発研究機関							1				1
	社会保険・社会福祉・介護事業		1			1						2
	宿泊業・飲食サービス業									1		1
	生活関連サービス業・娯楽業					1	2	1			1	5
	複合サービス事業						2					2
公務員	国家公務員	3	5			2				1		11
	地方公務員			1	5	1	3	1	2	1	1	15
	上記以外											0
	小計	24	21	34	23	34	35	42	19	45	26	303
	合計		45		57		69		61		71	303

【資料 2-20】奨学金制度・免除制度の採用状況（総合人間学部）

奨学金制度^{*1}

年度		23	24	25	26	27
日本学生支援機構奨学金	申請者数	6	5	3	3	3
	採用者数 ^{*2}	4	3	3	3	2
地方公共団体・民間奨学金 ^{*3}	地方公共団体(利用人数)	3	3	1	1	2
	民間団体(利用人数)	9	9	10	10	12

^{*1} 貸与・給付をあわせた人数である。学生支援機構奨学金は3回生以上の採用数。^{*2} 学生支援機構奨学金は3回生以上の採用数。^{*3} 民間奨学金の主な団体：中山報恩会、小森記念財団、伊藤謝恩育英財団、等。

免除制度

年度		23	24	25	26	27
入学科免除・徴収猶予制度	申請者数	1	2	3	0	2
	採用者数	1	1	3	0	2
授業料免除制度 ^{*1}	申請者数	67	94	97	123	125
	全額免除(採用者数)	19	40	59	76	63
	半額免除(採用者数)	43	47	27	20	24

^{*1} 前後期あわせた延べ人数である。



人間・環境学研究科

3. 人間・環境学研究科

【資料 3-1】人間・環境学研究科 学生数の推移

(各年度 5 月 1 日現在)

年度	修士課程					博士後期課程				
	男	女	計	指導教員数	教員 1 人当たり 学生数	男	女	計	指導教員数	教員 1 人当たり 学生数
23	211 (15)	146 (46)	357 (61)	141 ^{*1}	2.53	180 (21)	150 (28)	330 (49)	140	2.36
24	189 (7)	139 (44)	328 (51)	140 ^{*2}	2.34	180 (20)	148 (24)	328 (44)	138	2.38
25	173 (9)	137 (37)	310 (46)	142 ^{*2}	2.18	172 (15)	148 (31)	320 (46)	140	2.29
26	194 (17)	126 (23)	320 (40)	140 ^{*2}	2.29	153 (12)	137 (33)	290 (45)	138	2.10
27	212 (20)	123 (31)	335 (51)	143 ^{*2}	2.34	144 (13)	145 (39)	289 (52)	141	2.05
28	215 (20)	136 (43)	351 (63)	141 ^{*2}	2.49	158 (20)	139 (37)	297 (57)	139	2.14

注) () 内の数字は留学生で内数。

^{*1} 准教授 (修士課程担当 協力教員) 1 名を含む。

^{*2} 准教授 (修士課程担当 協力教員) 2 名を含む。

【資料 3-2】修士課程 入学状況

年度	人間・環境学研究科							専攻別																	
								共生人間学専攻							共生文明学専攻							相關環境学専攻			
	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数	内数		入学定員充足率	募集人員	志願者数	入学者数	内数		入学定員充足率	募集人員	志願者数	入学者数	内数		入学定員充足率	募集人員	志願者数	入学者数	内数		入学定員充足率
					総合人間学部	その他					総合人間学部	その他					総合人間学部	その他					総合人間学部	その他	
23	164	350	162	150	31	119	0.91	69	173	69	18	51	1.00	57	88	41	5	36	0.72	38	89	40	8	32	1.05
24	164	327	157	140	35	105	0.85	69	151	59	18	41	0.86	57	83	39	7	32	0.68	38	93	42	10	32	1.11
25	164	318	151	140	32	108	0.85	69	182	79	20	59	1.14	57	68	24	6	18	0.42	38	68	37	6	31	0.97
26	164	335	164	151	35	116	0.92	69	164	69	18	51	1.00	57	94	39	9	30	0.68	38	77	43	8	35	1.13
27	164	312	164	155	31	124	0.95	69	143	67	17	50	0.97	57	89	44	8	36	0.77	38	80	44	6	38	1.16
28	164	306	166	158	29	129	0.96	69	109	51	14	37	0.74	57	101	47	2	45	0.82	38	96	60	13	47	1.58

【資料 3-3】博士後期課程 進学・編入学状況

年度	人間・環境学専攻科						専攻別																	
							共生人間学専攻						共生文明学専攻						相関環境学専攻					
	募集人員	編入学志願者数	入学者数	内数 進学 編入学		入学定員充足率	募集人員	編入学志願者数	入学者数	内数 進学 編入学		入学定員充足率	募集人員	編入学志願者数	入学者数	内数 進学 編入学		入学定員充足率						
23	68	22	86	70	16	1.26	28	11	51	43	8	1.82	25	6	20	17	3	0.80	15	5	15	10	5	1.00
24	68	29	69	52	17	1.01	28	17	36	27	9	1.29	25	8	24	19	5	0.96	15	4	9	6	3	0.60
25	68	20	70	55	15	1.03	28	12	45	35	10	1.61	25	4	17	15	2	0.68	15	4	8	5	3	0.53
26	68	30	50	31	19	0.74	28	12	23	13	10	0.82	25	13	19	15	4	0.76	15	5	8	3	5	0.53
27	68	31	79	53	26	1.16	28	12	46	35	11	1.64	25	11	17	8	9	0.68	15	8	16	10	6	1.07
28	68	26	70	49	21	1.03	28	11	37	28	9	1.32	25	10	20	13	7	0.80	15	5	13	8	5	0.87

【資料 3-4】修士課程 留学生・社会人の入学状況

年度	人間・環境学研究科			専攻別								
	全入学者	留学生	社会人	共生人間学専攻			共生文明学専攻			相関環境学専攻		
				全入学者	留学生	社会人	全入学者	留学生	社会人	全入学者	留学生	社会人
23	150	26	2	69	11	0	41	14	2	40	1	0
24	140	21	11	59	8	8	39	12	1	42	1	2
25	140	21	9	79	13	6	24	6	3	37	2	0
26	151	15	7	69	5	5	39	9	1	43	1	1
27	155	34	6	67	13	4	44	18	1	44	3	1
28	158	26	4	51	6	3	47	16	0	60	4	1

【資料 3-5】博士後期課程 留学生・社会人の進学・入学状況

年度	人間・環境学研究科			専攻別								
	進・入学者 総数	留学生	社会人	共生人間学専攻			共生文明学専攻			相関環境学専攻		
				進・入学者 総数	留学生	社会人	進・入学者 総数	留学生	社会人	進・入学者 総数	留学生	社会人
23	86	13	6	51	8	3	20	3	1	15	2	2
24	69	12	14	36	4	7	24	7	5	9	1	2
25	70	15	6	45	6	5	17	9	0	8	0	1
26	50	15	6	23	6	3	19	7	1	8	2	2
27	79	18	12	46	7	8	17	8	3	16	3	1
28	70	13	18	37	2	13	20	9	3	13	2	2

【資料 3-6】留年・休学・退学の状況

(各年度5月1日現在)

		年度	23	24	25	26	27	28
修士課程	留年者	共生人間学専攻	13	18	14	17	19	18
		共生文明学専攻	22	14	13	10	9	17
		相関環境学専攻	10	7	5	4	4	5
		合計	45	39	32	31	32	40
	休学者	共生人間学専攻	12	11	10	11	10	10
		共生文明学専攻	15	9	10	8	9	7
		相関環境学専攻	3	5	5	2	2	2
		合計	30	25	25	21	21	19
	退学者	共生人間学専攻	3	4	6	5	3	
		共生文明学専攻	3	0	0	0	1	
		相関環境学専攻	8	1	5	3	3	
		合計	14	5	11	8	7	
博士後期課程	留年者	共生人間学専攻	47	56	61	68	54	54
		共生文明学専攻	52	44	41	35	33	39
		相関環境学専攻	3	3	5	6	6	7
		合計	102	103	107	109	93	100
	休学者	共生人間学専攻	36	45	39	46	27	29
		共生文明学専攻	20	26	19	24	20	14
		相関環境学専攻	5	3	2	3	2	5
		合計	61	74	60	73	49	48
	退学者	共生人間学専攻	5	3	4	3	5	
		共生文明学専攻	4	5	3	3	0	
		相関環境学専攻	4	2	3	0	1	
		合計	13	10	10	6	6	

注)・留年者数:毎年度5月1日現在の数
・休学者数:毎年度5月1日現在の数
・退学者数:当該年度内の累計数

【資料 3-7】研究生在籍数

年度	23	24	25	26	27	28
4 月在籍者数	26	25	24	20	15	20
留学生数（内数）	14	15	9	11	8	15
10 月在籍者数	27	32	30	35	30	31
留学生数（内数）	18	23	17	28	20	27

【資料 3-8】修士課程 開設科目数

（平成 28 年度）

専攻	科目数			
	講義	演習	実習	総合科目
共生人間学専攻	122	67	2	3
共生文明学専攻	11	83		3
相関環境学専攻	56	64		3

【資料 3-9】他研究科への聴講の状況

（人）

年度	23	24	25	26	27
文学研究科	43	44	40	51	68
教育学研究科	6	10	12	4	7
法学研究科		1	0	1	0
理学研究科	16	14	4	5	5
医学研究科			3	7	3
工学研究科	5	1	5	3	2
農学研究科		2	6	2	4
エネルギー科学研究科		2	5	2	0
公共政策大学院	6	1	1	7	6
地球環境学舎・学舎	2	1	13	3	3
経済学研究科	3	8	5	5	5
経営管理大学院	3	5	4	1	4
アジア・アフリカ地域研究研究科	3	3	3	0	4
情報学研究科	4	4	5	0	1
合計	91	96	106	91	112

【資料 3-10】単位互換制度の利用状況

【受入】

	年度	23	24	25	26	27
奈良女子大学 大学院人間文化研究科	認定学生数	5	0	5	2	2
	認定単位数	8	0	8	4	4
大阪大学 大学院国際公共政策研究科	認定学生数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0

【派遣】

	年度	23	24	25	26	27
奈良女子大学 大学院人間文化研究科	認定学生数	1	0	0	0	0
	認定単位数	10	0	0	0	0
大阪大学 大学院国際公共政策研究科	認定学生数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0

【資料 3-11】入学前既修得単位の認定状況

年度	23	24	25	26	27	28
認定学生数	2	2	0	3	1	0
認定単位数	10(2人)	8(1人) 10(1人)	0	4(2人) 9(1人)	8	0

【資料 3-12】TA採用状況

年度	23	24	25	26	27	28
修士課程	学生数	357	328	310	320	335
	採用数	202	184	158	156	159
博士後期課程	学生数	330	328	320	290	289
	採用数	72	72	63	70	70
TA 採用合計数		274	256	221	226	229

【資料 3-13】TA運用状況

年度	23	24	25	26	27	28
全学共通科目	科目数	176	150	164	171	156
	授業数	418	392	543	413	376
総合人間学部	科目数	70	86	60	59	56
	授業数	91	99	80	79	85
人間・環境学研究科	科目数	29	37	26	40	18
	授業数	29	38	26	40	25

【資料 3-14】RA採用状況

年度	23	24	25	26	27	28
博士後期課程学生数		335	368	320	290	289
RA 採用数	D1	4	6	4	2	6
	D2	8	5	6	4	6
	D3	6	5	5	5	2
合計		18	16	15	11	14

注) D1、D2、D3 は博士後期課程の年次を示す。

申請理由の内訳

年度	26	27	28
申請件数	17	15	20
申請理由(複数回答)			
調査・データ収集	5	9	15
データ解析・資料解析	5	3	7
試料調整、実験動物飼育・培養	1	0	1
実験(専門的実験技術)	5	4	9
専門的素養の活用	5	4	5
研究者育成	2	1	1
ワークショップの企画・運営	0	0	0

【資料 3-15】成績評価の方法

(平成 27 年度)

	専攻	授業 形態	科目数	評価方法 (採用率)								評価項目数 (%)			
				出席	授業態度	発表	レポート	期末 レポート レポート 試験	小テスト 課題	期末試験	その他	1	2	3	4 以上
修士課程	共生人間学専攻	講義	73	46.6	56.2	19.2	35.6	35.6	21.9	5.5	4.1	20.5	35.6	42.5	1.4
		演習	52	71.2	69.2	44.2	15.4	13.5	9.6	1.9	1.9	13.5	48.1	36.5	1.9
	共生文明学専攻	講義	76	48.7	61.8	14.5	28.9	44.7	13.2	13.2	3.9	21.1	38.2	31.6	9.2
		演習	65	55.4	66.2	50.8	18.5	16.9	9.2	6.2	7.7	16.9	40.0	38.5	4.6
	相関環境学専攻	講義	41	78.0	43.9	22.0	48.8	9.8	14.6	4.9	9.8	12.2	43.9	43.9	0.0
		演習	47	72.3	46.8	34.0	25.5	4.3	12.8	4.3	17.0	17.0	48.9	34.0	0.0
	全体	講義	190	54.2	55.8	17.9	35.8	33.7	16.8	8.4	5.3	18.9	38.4	38.4	4.2
		演習	164	65.2	61.6	43.9	19.5	12.2	10.4	4.3	8.5	15.9	45.1	36.6	2.4
博士後期課程		授業 形態	科目数	評価方法 (採用率)								評価項目数 (%)			
				出席	授業態度	発表	レポート	研究課題 への 取り組み	研究課題 の 達成度	期末研究 報告書	その他	1	2	3	4 以上
	全体	演習	72	25.0	23.6	4.2	9.7	52.8	52.8	9.7	11.1	20.8	69.4	9.7	0.0

注) ・平成 27 年度『学生便覧』より調査

・採用率は、各評価方法において、それを採用する科目数の全科目数に対する割合

【資料 3-16】修士課程 単位修得状況

(平成 27 年度)

課程	専攻	科目数	単位取得者数	受講登録者数	取得率
1・2 回生	共生人間学専攻	125	948	1,116	84.9%
	共生文明学専攻	136	746	836	89.2%
	相関環境学専攻	88	604	707	85.4%

【資料 3-17】修士課程 学位授与の状況

年度		23	24	25	26	27
共生人間学専攻	授与者	62	68	52	72	64
	未修者	20	18	21	22	21
共生文明学専攻	授与者	53	42	41	25	31
	未修者	17	13	10	9	18
相関環境学専攻	授与者	40	42	37	33	39
	未修者	15	5	8	7	7
総計	授与者	155	152	130	130	134
	未修者	52	36	39	38	46

注) 修士課程在籍 2 年で学位を取得できるが、各年度の授与者および未修者には、3 年以上の在籍者が含まれる

【資料 3-18】修士課程 標準修業年限内修了率と「標準修業年限×1.5」年内修了率

(A) 入学者数		(B1) 標準修業年限内 修了者数		(B1)/(A) = 標準修業年限内修了率	(B2) 標準修業年限×1.5 年 修了者数		(B1+B2+B3)/(A) = 「標準修業年限×1.5」 年内修了率
入学 年度	人数	修了 年度	人数		修了 年度	人数	
21	165	22	136	82.4%	23	17	92.7%
22	164	23	132	80.5%	24	13	88.4%
23	150	24	129	86.0%	25	13	94.7%
24	140	25	110	78.6%	26	15	89.3%
25	140	26	112	80.0%	27	13	89.3%
26	140	27	119	85.0%	28		

【資料 3-19】修士課程修了者の進路

年度		23			24			25			26			27		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
修了者数		94	61	155	94	58	152	71	59	130	69	61	130	85	49	134
進路別人数	人間・環境学研究科	30	21	51	33	22	55	14	17	31	27	26	53	31	16	47
	他研究科	2	1	3	4	0	4	3	1	4	1	1	2	2	2	4
	大学院進学 (合計)	32	22	54	37	22	59	17	18	35	28	27	55	33	18	51
	就職	52	29	81	48	19	67	46	34	80	35	28	63	44	24	68
	上記以外	9	10	19	9	17	26	8	7	15	6	6	12	8	7	15
大学院進学率 (%)		34.0	36.1	34.8	39.4	37.9	38.8	23.9	30.5	26.9	40.6	44.3	42.3	38.8	36.7	38.1
就職率 (%)※ ¹		55.3	47.5	52.3	51.1	32.8	44.1	64.8	57.6	61.5	50.7	45.9	48.5	51.8	49.0	50.7
就職希望者※ ² の就職率 (%)※ ³		81.3	72.5	77.9	78.7	52.8	69.1	80.7	81.0	80.8	83.3	80.0	81.8	81.5	72.7	78.2

注) ・※¹ 就職率 = 就職者数 / 修了者数・※² 就職希望者数 = 修了者数 - 大学院進学者数 - 他学部等への入学者数・※³ 就職希望者の就職率 = 就職者数 / 就職希望者数

【資料 3-20】修士課程修了者の就職状況

修了年度		23	24	25	26	27	合計
農業・林業・漁業				1	1		2
鉱業							0
建設業		1	1	1	1	1	5
製造業	食料品等		2	1		2	5
	繊維	1			1		2
	出版印刷	1			1		2
	化学工業	7	6	12	4	3	32
	鉄鋼業	1	1	1	2	2	7
	その他	16	15	13	8	16	68
電気・ガス・水道業		1		2			3
郵便業・情報通信業	運輸業・郵便業		2		1		3
	情報通信業	8	8	11	6	15	48
卸売・小売業		3	5	3	5	4	20
金融・保険業	銀行	1	2	4	2		9
	証券			2		3	5
	保険	1	3	1			5
	その他				1		1
不動産・物品賃貸業					2	1	3
サービス業	医療	1			4	1	6
	法務				1	1	2
	教育	11	8	10	11	10	50
	非営利						0
	その他 (マス コミを含む)	21	6	11	10	8	56
公務員	国家公務員		3	4			7
	地方公務員	7	4	2	2	1	16
上記以外			1	1			2
合計		81	67	80	63	68	359

【資料 3-21】博士後期課程 学位授与の状況

年度		23	24	25	26	27
共生人間学専攻	課程博士	14 (4)	24 (5)	21 (8)	24 (5)	35 (8)
	論文博士	1	0	0	2	5
	研究指導認定退学	20	27	29	35	31
	未修者	55	61	70	59	51
共生文明学専攻	課程博士	15 (1)	15 (6)	12 (1)	11 (3)	12 (0)
	論文博士	1	0	0	2	0
	研究指導認定退学	22	20	17	14	9
	未修者	46	41	35	37	39
相關環境学専攻	課程博士	10 (8)	7 (7)	7 (6)	9 (7)	2 (2)
	論文博士	0	0	0	0	1
	研究指導認定退学	2	5	1	1	3
	未修者	4	5	6	6	7
課程博士 旧専攻	人間・環境学専攻	0	0	0	1	0
	文化・地域環境学専攻	4	2	0	1	0
	環境相關研究専攻	1	0	0	0	0
合計	課程博士	44 (13)	48 (18)	40 (15)	46 (15)	49 (10)
	論文博士	2	0	0	4	6
	研究指導認定退学	44	52	47	50	43
	未修者	105	107	111	102	97

注)・課程博士の値は、研究指導認定退学の後に学位を授与された者の数を含む
・課程博士の()内の値は、博士後期課程在籍3年で学位を授与された者の数

【資料 3-22】博士後期課程 講座別学位授与の状況

専攻	年度	23	24	25	26	27
共生人間学専攻	11. 人間社会論	5	8	6	10	14
	12. 思想文化論	1	2	3	3	10
	13. 認知・行動科学	2	7	6	5	7
	14. 数理科学	1	0	1	0	3
	15. 言語科学	4	7	4	6	5
	16. 外国語教育論	2	0	1	2	1
	専攻計	15	24	21	26	40
共生文明学専攻	21. 現代文明論	6	3	5	3	4
	22. 比較文明論	3	1	0	1	2
	23. 文化・地域環境論	5	8	4	5	2
	24. 歴史文化社会論	2	3	3	4	4
	専攻計	16	15	12	13	12
相關環境学専攻	31. 共生社会環境論	1	0	0	0	0
	32. 分子・生命環境論	4	2	1	3	0
	33. 自然環境動態論	3	3	3	4	2
	34. 物質相關論	2	2	3	2	1
	専攻計	10	7	7	9	3
小計		41	46	40	48	55
旧専攻	人間・環境学専攻	0	0	0	1	0
	文化・地域環境学専攻	4	2	0	1	0
	環境相關研究専攻	1	0	0	0	0
	旧専攻計	5	2	0	2	0
研究科合計		46	48	40	50	55

注) 論文提出により学位を授与された者の数を含む。

【資料 3-23】博士後期課程 標準修業年限内修了率と「標準修業年限×1.5」年内修了率

入学者数		標準修業年限内 修了者数		標準修業年限内 修了率	標準修業年限×1.25年 修了者数		標準修業年限×1.5年 修了者数		「標準修業年限×1.5」 年内修了率
入学 年度	人数	修了 年度	人数		修了 年度	人数	修了 年度	人数	
19	84	21	19	22.6%	22	3	23	3	29.8%
20	75	22	13	17.3%	23	5	24	6	32.0%
21	71	23	12	16.9%	24	6	25	2	28.2%
22	82	24	11	13.4%	25	4	26	3	22.0%
23	86	25	15	17.4%	26	4	27	5	27.9%
24	69	26	15	21.7%	27	4	28		
25	70	27	10	14.3%	28		29		

【資料 3-24】博士後期課程 修了者・研究指導認定退学者の進路

年度		23			24			25			26			27		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
修了者数 ^{*1}		36	22	58	46	24	70	35	34	69	44	27	71	28	33	61
進路別 人数	就職	22	5	27	21	8	29	23	16	39	29	17	46	16	17	33
	その他	14	17	31	25	16	41	12	18	30	15	10	25	12	16	28
就職率		61.1	22.7	46.6	45.7	33.3	41.4	65.7	47.1	56.5	65.9	63.0	64.8	57.1	51.5	54.1

^{*1} 博士後期課程修了者と研究指導認定退学者の合計であり、研究指導認定退学後に学位を取得した者は含まれない。

注) ・就職年度は、学位授与者では学位授与年度、学位未授与の研究指導認定退学者では退学年度とした。

【資料 3-25】博士後期課程 修了者・研究指導認定退学者の就職状況

年度		23	24	25	26	27
教育	大学・大学院	8	10	8	22	20
	高校・高专		3	2	1	1
	その他	2	6	2	3	2
	小計	10	19	12	26	23
研究所	国立	1			2	1
	地方			1		
	その他		1		1	
	小計	1	1	1	3	1
その他		16	9	26	16	9
合計		27	29	39	45	33

(人)

【資料 3-26】教員免許状資格取得状況

年度		23	24	25	26	27
中学専修	社会	1	2			
	国語	1			1	
	英語	2	2	2	3	2
	保健体育	1	1			1
	数学					
	理科			1		
	小計	5	5	3	4	3
高校専修	地理歴史	2	3		1	
	公民					
	国語	1		1	1	
	英語	3	2	2	4	3
	保健体育	1	1			1
	数学			1		
	理科	2	1	1		
	小計	9	7	5	6	4
免許数総計		14	12	8	10	7
取得者数		9	7	5	6	4

【資料 3-27】日本学術振興会特別研究員への採用状況

(人)

	23	24	25	26	27	28
DC1	14	5	8	4	7	7
DC2	8	9	9	10	8	15
計	22	14	17	14	15	22

【資料 3-28】奨学金制度と免除制度の採用状況（人間・環境学研究科）

日本学生支援機構奨学金

年度		24	25	26	27	28
修士課程	申請者数	55	62	49	48	50
	採用者数	54	62	49	48	50
博士後期課程	申請者数	20	19	9	22	10
	採用者数	20	19	9	22	10

入学科免除

年度		24	25	26	27	28
修士課程	申請者数	37	40	44	48	56
	採用者数	17	14	20	18	22
博士後期課程	申請者数	1	4	8	8	5
	採用者数	1	3	3	4	0

授業料免除

年度		24		25		26		27		28	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
修士課程	申請者数	100	98	99	94	112	129	129	138	143	134
	全額免除（採用者数）	21	19	32	43	51	77	59	44	70	59
	半額免除（採用者数）	63	71	55	43	36	20	34	57	42	55
博士後期課程	申請者数	81	84	90	86	97	100	103	108	111	122
	全額免除（採用者数）	27	20	49	48	60	68	75	67	81	72
	半額免除（採用者数）	50	53	37	34	25	16	13	27	18	35



教育研究指導

4. 教育研究指導

【資料 4-1】ガイダンスについて

総合人間学部

(平成 28 年度)

日程	ガイダンス名	内容	主催
2016年4月7日(木) 総合人間学部棟 1102講義室	新入生ガイダンス	教員の紹介と大学生活全般についての説明 学部長挨拶 / 全体説明 / 学生生活委員会から / 吉田南構内交通安全委員会から / 人権問題相談窓口から / 吉田南総合図書館の紹介 / 同窓会の案内 / 講演「大学生生活のすこし方ストレスと上手につきあうには？」(京都大学カウンセリングルーム講師 和田竜太) / 担任、教員アドバイザー、指導教員等についての説明 / 各担任に分かれての説明	教務委員会・教務掛
2016年4月7日(木) 総合人間学部棟 1102講義室	メンタルヘルス講習会 新入生・新 2・3・4 回生対象	「大学生生活のすこし方ストレスと上手につきあうには？」 (京都大学カウンセリングルーム講師 和田 竜太)	学生生活委員会
2016年4月8日(木)	新 2・3・4 回生学系ガイダンス	学系ごとに全体説明、各教員アドバイザーから説明 履修コースを提示し、卒業論文・卒業研究に至る過程を説明する 人間科学系 (1806 講義室) / 認知情報学系 (1102 講義室) / 国際文明学系 (1805 講義室) / 文化環境学系 (1807 講義室) / 自然科学系 (1809 講義室)	教務委員会・教務掛
2016年4月11日(月)	新 2・3・4 回生学系ガイダンス	同上 人間科学系 (1806 講義室) / 認知情報学系 (1102 講義室) / 文化環境学系 (1807 講義室)	教務委員会・教務掛
2016年10月19日(月)	学系分属説明会【人間科学系】	学系の中の各関係・分野の紹介と就職進学の説明 (1 回生を対象とするが、2 回生の参加も認める)	教務委員会・教務掛
2016年10月20日(火)	学系分属説明会【認知情報学系】		
2016年10月21日(水)	学系分属説明会【国際文明学系】		
2016年10月22日(木)	学系分属説明会【文化環境学系】		
2016年10月23日(金)	学系分属説明会【自然科学系】		
2016年9月29日(木) 13:00～	平成 28 年度就職ガイダンス (就活体験報告会) 精神衛生にかかわる講演会 (大学生向けデート DV 予防講座)	13:00～15:15 ・「就職関係について」(就職担当教員 石原昭彦 教授) ・就職内定者からの就活体験等の報告 (総合人間学部生 4 回生の内定者 (3 名)、人環修士課程 2 回生の内定者 (2 名)、計 5 名) ・質疑応答 15:30～17:00 精神衛生にかかわる講演会 (大学生向けデート DV 予防講座) ・「身近なところでの支配 / 権力関係 / 暴力にどう対処するかーデート DV・ストーカーを学ぶ」 (非暴力ルーム・大阪 (MOVO) 運営者: 伊田広之氏)	学生生活委員会

人間・環境学研究科

(平成 28 年度)

日程	ガイダンス名	内容	主催
2016年4月6日(月) 10:30～12:00 人間・環境学研究科棟 地下大講義室	「実験実習における安全と環境保全」講習会	「実験実習における安全と環境保全」講習会 ●化学薬品の管理、取扱いにおける安全と実験廃棄物処理 ●レーザー、極低温、高圧ガス、強磁場を使った作業における注意事項 ●ライフサイエンス関係実験における安全 ●理系のフィールドワークの安全対策 ●文系フィールドワーク実習における安全 (理系実験系学部生 (3,4 回生、修士新入生・博士編入生)、文系フィールドワーク分野学部生 (3,4 回生、修士新入生・博士編入生) 対象)	共生人間学専攻 (認知・行動科学講座) (文化・地域環境論講座) 相関環境学専攻
2016年4月7日(火)	全体 新入生オリエンテーション	(第 1 部) 10:00～11:30 履修指導 / 薬物乱用防止等について / 人権問題について / 国際交流について / 図書館利案内 / 「人間・環境学フォーラム」案内 / ティーチング・アシスタントについて / 同窓会案内 / 環境行動啓発活動について (修士課程新入生対象)	大学院教務委員会・ 大学院掛
		(第 2 部) 人間・環境学フォーラム 新入生歓迎講演会・交流会・新入生歓迎講演会 15:30～16:20 (人間・環境学研究科棟 地下大会議室) 「まちなみの構想力 一京都を 10 倍楽しむために」 中嶋節子 教授 司会: 久代恵介 准教授 ・交流会 16:25～17:30 「大学院生活の過ごし方 ーストレスと上手につきあうには？」 (京都大学 学生総合支援センター カウンセリングルーム 和田竜太 講師) ・懇親会 19:00～20:30 (吉田生協食堂 1 階)	人間・環境学フォー ラム実施委員会
		講座別オリエンテーション (修士課程新入生対象) 17:30～18:30	大学院教務委員会・ 大学院掛
2016年4月10日(金)	修士課程 2 回生 履修・進路指導説明会		大学院教務委員会・ 大学院掛
2016年4月15日(金)	留学生オリエンテーション	新入の留学生を対象にしたオリエンテーション	大学院掛
2016年4月15日(土) 13:10～16:30 京都大学東京オフィス	平成 29 年度第 1 回入学試験 東京説明会	・研究科紹介・入試情報説明 / ・各専攻紹介 ・個別相談 / ・過去問閲覧 (修士課程のみの直近 4 回分)	
2016年4月22日(土) 13:00～16:30	平成 29 年度第 1 回入学試験 京都説明会	・研究科紹介・入試情報説明 / ・各専攻紹介 ・個別相談 / ・過去問閲覧 (修士課程のみの直近 4 回分)	
2016年10月7日(金)	博士学位論文作成説明会	・博士学位論文提出日程、提出要領等の説明 (博士後期課程 3 回生対象)	大学院教務委員会
2016年10月21日(金)	修士学位論文作成説明会	・修士論文提出日程、提出要領等の説明 (修士課程 2 回生対象)	大学院教務委員会
2016年10月15日(土) 13:10～16:30 京都大学東京オフィス	平成 29 年度第 2 回入学試験 東京説明会	・研究科紹介・入試情報説明 / ・各専攻紹介 ・個別相談 / ・過去問閲覧 (修士課程のみの直近 4 回分)	
2016年10月22日(土) 13:00～16:00	平成 29 年度第 2 回入学試験 京都説明会	・研究科紹介・入試情報説明 / ・各専攻紹介 ・個別相談 / ・過去問閲覧 (修士課程のみの直近 4 回分)	

【資料 4-2】学習指導方法の工夫

(平成 24 年 6 月・27 年 7 月実施 教員アンケート：回答数 H24-104 件, H27-40 件)

項目・内容		学部教育			大学院教育			全共教育		
		H24 件数	H27 件数	具体例	H24 件数	H27 件数	具体例	H24 件数	H27 件数	具体例
授業形態	少人数授業	6	9		11	12		5	6	
	対話・討論型授業	6	15	●対話編教材の試行	15	15		10	9	●必ず全員に当てる ●対話編教材の試行
	講義・演習の併用型授業	6	3		2	1			1	
	デモ・実験・現物観察等による 体験型授業	5	4		3	3		6	5	
	野外調査・現物調査を組み入れた 授業	5	6	●地域密着型のフィールド 演習 ●学外施設の活用 ●宿泊を伴う演習	4	3		3	3	
授業	質問の多用 (それに対する回答と議論に基づく 授業展開)	1	2			1		2	2	
	プレゼンテーションの活用 (重視)	1	4		3	7			3	
	その他			●初回に詳細な授業計画の 提示 ●学生の反応への柔軟な対応			●初回に詳細な授業計画の 説明 ●最新の研究動向を反映した 講義 ●週一の研究内容の報告 (発表) ●学生の実態 (実力) に合わ せる ●留学生の出身国の状況に対 応させる ●事前学習の重視 ●ゼミテーマを毎年変更			●初回に詳細な授業計画の提 示と参考文献の紹介 ●発表に関する事前相談 ●学習の動機付けを重視 ●身近な問題を取り上げる ●グループに分けての課題設 定・討論
資料・教材等	英語論文・教科書・教材の利用	3	2		5	4				
	画像・映像・音声資料の活用 (ウェ ブ資料)	6	4		2	2		6	9	●劇場録音テープ
	講義資料・補助資料の配布	2	4			3		2	4	
	パソコンの活用 (デモ、シミュレーション、演習解答)	1	1			3	●CALL, iPad 利用教材	1		
	教科書・教材の作成				2					
	その他			●OCW の活用 ●参考文献の提示 ●学術論文の検索・入手の指 導とその奨励			●参考文献の提示 / 丁寧な文 献紹介 ●教材の厳選 ●資料原本の利用			●デモのための実験装置の 作成 ●実験操作法の映像資料の作 成 (基礎化学 - 日本語版 / 英語版) ●参考文献の提示
課題	レポート・小テスト・演習問題 …毎回、複数回、小単元毎 …添削後返却	1	2		2			3	4	
その他	TA の活用	4	8	●授業補助 ●ゼミ発表者の事前相談役	2			7		
	授業用ウェブサイトの活用 (資料、プログラム、課題)	1	1			1		2	1	●学習指導システム (PandA) の活用
	英語による授業 (対話・討論型等)	1	1		2	3		1	3	
	自律型学習支援システム (CALL) の 活用							4	3	
	その他			●作品 (発表) の作成と上映と それに対する討論。それを 講義内容にフィードバック ●英文脚本講読と学生による 英語劇の上演 ●アカデミックライティング の実践 ●卒業研究のテーマ設定につ ながる助言に心がける ●毎回の講義後にコミュニケ ーションシートを提出させる ●大学院の演習への参加の 奨励			●学生による模擬授業 (他分 野教員、外国教員からのコ メント) ●宿泊を伴う集中ゼミ ●院生を中心とするゼミ ●正規授業以外の自主ゼミ ●先行研究を追えるための 助言 ●学生の主体的な問題設定 ●論文作成の指導 ●個別指導			●少人数発展型実験実習 (探 求型化学実験) ●正規授業以外の自主ゼミ ●授業終了後に意見聴取 (紙 媒体)、次週にフィード バック ●自由な研究テーマの設定に よる授業展開 ●研究サイクルの実践、独自 課題の設定から解決までの 思考訓練 ●教科書にない説明・解釈の 提示

【資料 4-3】授業時間外の学習を促す工夫

(教員アンケート H24.6月・H27.7月実施)

項目・内容		学部教育			大学院教育			全共教育		
		H24 件数	H27 件数	具体例	H24 件数	H27 件数	具体例	H24 件数	H27 件数	具体例
情報の提供	教科書・参考書の提示	2	2	●参考書は毎年変更	4	2	●参考書は毎年変更 ●英語教科書の使用	1		
	必読書籍・論文の提示	1	2			4	●学生用必要図書を購入 ●原文の研究書の貸与	1	3	
	関連資料（文献・書籍・資料等）の紹介	6	4	●資料に関するレポートを課す ●参考文献の学習とそのレポートを履修条件とする	8	5	●資料に関するレポート・授業内報告を課す ●論文紹介の義務づけ	2	3	
	関連情報掲載の URL を紹介	1			2		●Podcast 番組の活用	2		
資料・教材	講義資料の WEB 掲載	1			1			1	2	●授業用ウェブサイトの活用
	講義資料の事前配布	1	3			3				
	その他			●英語教科書の使用 ●講義資料の充実（講義後に熟読させる）			●リスニング教材(CD)の配布 ●テキストの翻訳			●教科書の作成 ●自律型 CALL 教材の開発 ●shadowing システムを導入
講義内	プレゼンテーションの活用	3	4	●事前準備必要 ●全員に課す ●発表時にはメモを見ない	2	8	●発表用レジメの作成	1	3	●グループ発表
	討論・議論型授業	1	2	●質問を多用	1	1				
	準備学習・復習の指導		2	●準備学習が必要な素材の選択 ●予習の徹底 ●質問事項の事前提示	1	1	●分担制 ●予習の徹底 ●事前学習の徹底（週に論文 2 本を読む）	5	3	●分担制スケジュールの明示 ●文献検索・収集方法の指導 ●予習の徹底 ●予習の程度を成績評価の対象とする
課題	宿題の提示（レポート・小テスト・演習等）	20	10	●講義内でレポート発表 ●添削後返却、再提出を課す ●小テスト・毎回、クイズ形式 ●長文の期末レポート ●教科書や WEB に掲載が無い問題を設定	12	7	●グループ課題を課し、まとめる ●長文の期末レポート	24	20	●個々の予備学習をグループとしてまとめる ●小テスト（毎回、単元毎、定期的） ●課題提出後に課題の詳細解説 ●添削・採点結果の詳細な解説 ●自宅学習用の問題集 ●教科書・WEB に掲載が無い問題を提示
	自主学習用の問題の提示等	2	1	●学生各自でテーマ・文献を設定	3	1	●発展的課題の提示 ●自主学習成果の報告 ●研究上の重要課題を提示 ●学生自身での論文選定	3	6	●読書ノートの提出 ●学生自らの研究関心による報告
	野外調査	1	1	●レポートを課す ●主体的な野外調査の推奨	1	1		1	1	●レポートを課す
その他	学生主導ゼミ・勉強会の推奨	2	1	●学生主導のゼミ運営	2	2	●他研究室への院生室の開放 ●授業時間外セミナーの開催			
	メールによる学習指導				1			1		
	定期的な研究進捗状況の報告	1			1	3	●定期的な研究報告			
	時間外指導時間の確保	1			1	5	●面談による個人指導		2	
	授業時間外学習時間の確保	1			2			1		
	その他			●他部局のゼミへの参加の推奨 ●最終レポートを学外関係者にも配布させる ●PandA の利用			●所属院生との日常的な会話・議論 ●授業時間外の学外施設での研究 ●時間外に関連ある施設等に行くことを推奨 ●毎週の輪読会 ●他部局のゼミへの参加の推奨 ●組織的な履修指導 ●学部生の指導 ●PandA の利用			●CALL ●オフィスアワーの活用 ●OCW への講義映像の提供 ●PandA の利用

【資料 4-4】基礎学力不足の学部学生への配慮

項目・内容		全学共通教育			学部教育		
		H24 件数	H27 件数	具体例	H24 件数	H27 件数	具体例
講義内対応	基礎学力不足を前提とした授業	3	5	●基礎的内容からの授業展開 ●重要点の繰り返し ●実例・具体例を豊富に提示	2	1	●基礎的事項からの丁寧な解説 ●実例・具体例を豊富に提示
	学力把握とそれに対応した教材と教授法の選定	2	7	●初歩的解説をうまく組み込む	2	10	●対話型授業により把握する ●初歩的解説をうまく組み込む
	予習・復習の徹底	2		●口頭での繰り返しの指示 ●期末にまとめた復習の設定		1	
	その他			●教育集团編成の工夫・配慮 (学力混合集団編成、履修済み先輩学生の活用) ●質問時間を多く取る			●教育集团編成の工夫
授業補助	書籍・文献等の紹介	5	1		5	2	●参考文献等の貸与 ●必読書の個別選定
	課題の提示	4	1	●レポート添削と返却時の指導 ●演習に時間を割き、添削して指導 ●レポート作成の指導	1	1	●演習に時間を割き、添削して指導 ●レポート作成の指導 ●演習問題に容易な問題も含める
	教材開発	1		●英文テキストの作成			
受講者への対応	質問等への個別対応 対応時間の設定(オフィスアワー等)	5	6		4	8	●親身な対応
	TA の活用	1			1	1	
	学習進捗状況の把握	1		●簡単な課題による学力把握	2	1	
	その他			●理系基礎科目の履修の指導			●コミュニケーションノートの利用 ●理系基礎科目の履修の指導 ●学生同士の交流を促す

【資料 4-5】研究教育上の目的やディプロマ・ポリシーを意識した学習方法・成績評価の観点(基準)

(教員アンケート H27.7 月実施)

[成績評価]	項目	件数	事例
学部	発表の重視	5	●プレゼンテーションの論理性 ●事前の資料準備を含む
	討論への参加の重視 対話能力、議論の質	4	●グループ討論・全体討論への参加状況
	課題への対応 研究における独自性/独創性	6	●講義内容を理解だけではなく、学生独自の発想も評価 ●記憶力などの能力ではなく、研究課題の独創性を評価
	総合評価 平常点・試験・レポート等	7	●演習での平常点評価に際し、発展的な論点指摘だけでなく、初歩的な論点指摘にも高い評価を与える ●論述試験
	その他	3	●レポート等の添削を通じた対応状況 ●持続的な学習態度 ●想像力の向上
大学院	発表の重視	5	
	討論への参加の重視 対話能力、議論の質	5	●グループ討論・全体討論への参加状況 ●問題提起能力 ●ゼミへの積極参加、質問・議論の意欲
	課題への対応 研究における独創性	6	
	総合評価 平常点・試験・レポート等	6	●成果のみならず、着想・企画力・解析能力も含めた総合的評価 ●授業内容に対する取り組みに、学生自身の研究が生かされていることも評価する
	事前学習・資料準備	2	
	レポートの論理性	3	
	その他	3	●ゼミにおける学部生の指導状況 ●想像力の向上

【資料 4-6】大学院生の学会発表者数

(平成 27 年 9 月現在)																				
	22		23		24				25				26				27			
	国内 会議	国際 会議	国内 会議	国際 会議	国内会議		国際会議		国内会議		国際会議		国内会議		国際会議		国内会議		国際会議	
					修士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士
共生人間学 専攻	128	42	122	47	13	66	2	25	12	93	2	23	19	67	2	25	14	35	4	18
共生文明学 専攻	17	0	20	0	1	19	0	10	2	27	1	10	0	24	0	9	1	9	0	2
相関環境学 専攻	150	39	155	41	40	36	4	10	62	54	24	32	81	30	20	11	30	20	16	13
合計	295	81	297	88	54	121	6	45	76	174	27	65	100	121	22	45	45	64	20	33
					175		51		250		92		221		67		109		53	

【資料 4-7】学会への参加を促す取組み

(教員アンケート H24.6 月, H27.7 月実施)

項 目	共生人間学専攻		共生文明学専攻		相関環境学専攻	
	H24	H27	H24	H27	H24	H27
学会(シンポジウム)参加費の補助	8	9	2		20	8
旅費の補助	17	14	2	2	21	9
研究進捗状況に合わせた学会発表の 提案・奨励とそのための指導	1	3	1	4	2	4
海外現地調査、留学体験の推奨			1	2		
奨学金・研究助成の申請のサポート			1	2		
学会情報の提供		3	1	4		1
大学宿泊施設の斡旋			1			
学会等の京都開催	1					
競争的資金の獲得	1	1		1		1

【資料 4-8】他大学・公的機関及び企業との共同研究の件数

年度	23	24	25	26	27
共生人間学専攻	19	5	6	4	4
共生文明学専攻	3	6	1	1	1
相関環境学専攻	37	16	27	23	24
合計	59	27	34	28	29

25 年度

花王株式会社、株式会社エクシング企画開発部、独立行政法人宇宙航空研究開発機構、独立行政法人科学技術振興機構、Nestec Ltd.、キャノン株式会社、サントリーウェルネス株式会社、The NATIONAL CENTER FOR SCIENTIFIC RESEARCH (CNRS)、中央大学人文科学研究、株式会社 KRI、トヨタ自動車株式会社先端材料技術部、株式会社カシイ、積水化学工業株式会社住宅カンパニー住環境事業部、関西大学、兵庫県自然保護協会、東京大学、北海道大学、IDAC、国立感染症研究所、熊本大学、九州大学、ロシア科学アカデミー、モスクワ国立大学、カーディフ大学、マルセイユ大学、東京大学、島根大学、名古屋大学、株式会社豊田中央研究所、本田技術研究所、日揮触媒化成、住友金属鉱山、東北大学、防衛大学校、日本原子力機構、独立行政法人物質・材料研究機構

26 年度

滋賀医科大学、東京大学、武漢大学（中国）、大阪大学、北海道大学、マレーシア国サラワク州森林局、株式会社 KRI、生産開発科学研究所、若狭湾エネルギー研究センター、ヘルシンキ大学、名古屋大学、島根大学、豊田中研究所、ニフティ株式会社、IDAC、日本 BCG 研、関西大学、富山県立大学

27 年度

株式会社コラボ、滋賀医科大学、東京大学、武漢大学（中国）、大阪大学、大阪市立大学、北海道大学、マレーシア国サラワク州森林局、株式会社 KRI、和光純薬工業株式会社、株式会社 GS ユアサ、生産開発科学研究所、若狭湾エネルギー研究センター、ヘルシンキ大学、名古屋大学、島根大学、豊田中研究所、立命館大学、広島大学、北海道大学、ニフティ株式会社、IDAC、日本 BCG 研、関西大学、富山県立大学

【資料 4-9】他大学・公的研究機関の共同利用施設・設備の利用に関わる研究課題採択数

年度	23	24	25	26	27
共生人間学専攻	7	1	0	5	5
共生文明学専攻	1	2	0	1	1
相関環境学専攻	36	7	5	11	9
合計	44	10	5	17	15

平成 26 年度

- 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター「プロジェクト型」の共同研究（研究分担者）（H26-27）
- 明治国際医療大学新学術領域研究，連携者「スパースモデリングの深化による MR スペクトルスコピーへのデータ駆動学的アプローチ」（H26-27）
- 宇宙航空研究開発機構（JAXA）
 - ・「微小重力での体の変化と対抗策－長期の宇宙滞在を目指して－」（H26）
 - ・「長期宇宙滞在飛行士の姿勢制御における帰還後再適応過程の解明」（H26-27）
- 放射線医学総合研究所「ニホンヤマネの骨格筋・骨密度の画像解析技術の開発」（H26）
- 神戸研究学園都市大学交流推進協議会「未来に向けた日中交流と日中相互関係」（H26-27）
- 公益財団法人高輝度光科学研究センター 大型放射光施設（SPring-8）
 - ・「その場電気化学 XAS 法による高性能酸化還元ペロブスカイト酸化物触媒の設計指針構築」（H26）
 - ・「その場電気化学 XAS 法による高性能固体酸化物形燃料電池空気極の界面構造解析」（H26）
 - ・「その場 2 次元 X 線吸収分光法による全固体リチウム電池複合電極設計指針の構築」（H26）
 - ・「その場電気化学 XAFS 測定を用いた固体高分子形燃料電池コアシェル触媒における酸素還元活性および劣化因子に及ぼすリガンド効果の解明」（H26）
 - ・「その場電気化学 - 深さ分解蛍光 XAFS 法による全固体リチウム二次電池における酸化物電極／硫化物電解質固固界面の現象解明」（H26）
 - ・「軟 X 線吸収分光測定を用いた全固体リチウムイオン電池電極材料の局所構造解析」（H26）
 - ・「高エネルギー X 線コンプトン散乱を用いた大型蓄電池反応状態解析手法の開発」（H26）
 - ・「その場電気化学 XAFS 測定を用いた固体高分子形燃料電池コアシェル触媒における Pd コア合成条件の確立」（H26）
 - ・「その場電気化学 - 深さ分解蛍光 XAFS 法による全固体リチウム二次電池における酸化物電極／硫化物電解質固固界面の現象解明 II」（H26）
 - ・「その場電気化学・高エネルギーコンプトン散乱測定を用いたリチウムイオン電池合剤電極の反応分布解析」（H26）
- 東京大学大気海洋研究所「二次イオン質量分析計を用いたアパタイトーメルト間の水素の分配関係の決定」（H26）
- 岡山大学地球物質科学研究センター「冥王代初期地殻の主成分元素組成の推定：カンラン岩高圧融解実験からの制約」（H26）
- 高エネルギー加速器研究機構
 - ・「人工光合成のためのチタン酸塩光触媒上の銀助触媒の XAFS による状態解析」（H26-27）
 - ・「水分解のためのチタン酸塩光触媒上の白金助触媒の XAFS による状態解析」（H26-27）
- 高エネルギー加速器研究機構・物質構造科学研究所・放射光科学研究施設（KEK-PF）
 - ・「レゾルシノール代謝に関わる酵素の構造解析と遺伝子産物の構造ゲノム科学研究（2012G645）」（H26）
 - ・「アスパラギン酸ラセマーゼの温度適応に関する構造解析（2012G745）」（H26）
 - ・「レゾルシノール代謝酵素の構造解析が支援する未知遺伝子産物の構造ゲノム科学研究（2014G699）」（H26-28）
 - ・「アスパラギン酸ラセマーゼの温度適応に関する構造解析 II（2014G694）」（H26-28）
- 公益財団法人高輝度光科学研究センター 大型放射光施設（SPring-8）
 - ・「準安定メゾ相を形成する結晶性高分子の結晶サイズの圧力の依存性について [課題番号：2014B1509]」（H26）
 - ・「中間相を経由する高分子結晶化に対する圧力の依存性について [課題番号：2014A1457]」（H26）

平成 27 年度

- 高知大学海洋コア総合研究センター [課題] 全国共同利用課題研究
- SPring-8
 - ・「オペランド軟 XAS 法による高性能酸化還元ペロブスカイト酸化物触媒の設計指針構築」（H27）
 - ・「その場深さ分解 XAFS を用いたリチウム二次電池正極 LiFePO₄ の核生成反応高速化指針構築」（H27）
 - ・「その場 2 次元 X 線吸収分光法による全固体リチウム電池複合電極反応分布の計測」（H27）
 - ・「その場電気化学 XAS 法による固体酸化物形燃料電池低温化への指針構築」（H27）
 - ・「オペランド電気化学 XAFS によるパラジウムコアー白金シェル型燃料電池触媒における酸素還元反応に及ぼすイオン液体添加効果」（H27）
 - ・「深さ分解蛍光 XAFS 法による全固体リチウム二次電池の酸化物電極／硫化物電解質界面制御効果の解明」（H27）
 - ・「高エネルギー X 線コンプトン散乱を用いた大型リチウムイオン電池反応状態のオペランド観測手法開発」（H27）
 - ・「オペランド 2 次元 X 線吸収分光法による全固体リチウム電池複合電極反応分布の解析」（H27）
 - ・「その場深さ分解蛍光 XAFS 法による全固体リチウム二次電池の酸化物電極／硫化物電解質界面制御効果の解明」（H27）
 - ・「高エネルギー X 線コンプトン散乱を用いた大型リチウムイオン電池作動条件下の反応分布解析」（H27）
- 岡山大学地球物質科学研究センター「コマチアイトの高圧含水融解実験による冥王代大陸地殻組成の解明」（H27）
- 京都工芸繊維大学「脳イメージングを取り入れたインタラクションデザインによるテキスタイルの創製（科学研究費補助金基盤（A））」（H27）
- 核融合研究所「高感度トリチウムガスモニターの標準ガス試料による性能評価」
- 高輝度光科学研究センター「in situ XAFS 分析を用いた担持 Pt 触媒上でのプロピレン水素化反応における担体効果・粒子径効果の解明」
- 高輝度光科学研究センター・大型放射光施設（SPring-8）「 γ -レゾルシノール酸分解経路遺伝子群由来 GraE タンパク質の結晶構造解析 II」（2015A1112）（H27-29）

【資料 4-10】部局内及び部局を構成する学内外研究機関との共同研究

共同研究【研究プロジェクト】

No.	共同研究者	分野・職位等（発表時） 学内外研究機関の所属等	メンバー / プロジェクト名 / 研究種目	プロジェクト期間
1	田中雅一 江田憲治	文化人類学 教授（協力） 人文科学研究所 教授 文明構造論 教授	【代表】田中雅一【分担】江田憲治 ほか 「アジアの軍隊にみるトランスナショナルな性格に関する歴史・人類学的研究」 科学研究費補助金 基盤研究（B）	平成 20-23 年度
2	月浦 崇 齋木 潤 山本洋紀 阿部修士 吉川左紀子 船橋新太郎	認知科学 准教授 認知科学 教授 認知科学 助教 こころの未来研究センター 助教 こころの未来研究センター 教授 認知科学 教授（協力） こころの未来研究センター 教授	【代表】阿部修士 【連携研究員】齋木 潤・月浦 崇・山本洋紀 ほか 【センター参画】吉川左紀子・船橋新太郎 脳機能イメージングと心理学実験設備の整備と運用体制の構築 こころの未来研究センター 【教員提案型連携研究プロジェクト】	平成 23-24 年度
3	壇辻正剛 坪田 康 河崎 靖 道坂昭廣	言語比較論 教授（協力） 学術情報メディアセンター 教授 学術情報メディアセンター 助教 言語比較論 教授 東アジア文化論 教授	【代表】壇辻正剛 【分担】坪田康・河崎 靖・道坂昭廣 ほか ICT を利用した応用言語学的研究 科学研究費補助金 基盤研究（B）	平成 23-26 年度
4	齋木 潤 鎌田東二 小倉紀蔵 篠原資明	認知科学 教授 こころの未来研究センター 教授 多文化複合論 教授 創造行為論 教授	【代表】鎌田東二【分担】齋木 潤・原資明 ほか 【研究協力者】小倉紀蔵 ほか 身心変容技法の比較宗教学—心と体とモノをつなぐワザの総合的研究 科学研究費補助金 基盤研究（A）	平成 23-26 年度
5	月浦 崇 阿部修士	認知科学 准教授 こころの未来研究センター 助教	【代表】阿部修士【連携研究員】月浦 崇 ほか 不正直な行動の神経生物学的基盤の研究 こころの未来研究センター【教員提案型連携研究プロジェクト】（『こころ観』領域）	平成 24-26 年度
6	齋木 潤 上田祥行	認知科学 教授 こころの未来研究センター 特定助教	齋木 潤・上田祥行 認知制御機構の間変異の規定因に関する研究 科学研究費補助金基盤研究（A）「平均特性と個人間変異の統合による重層的認知制御機構の神経基盤の解明」（研究代表者：齋木潤）	平成 24-26 年度
7	齋木 潤 上田祥行	認知科学 教授 こころの未来研究センター 特定助教	齋木 潤・上田祥行 マインドフルネス瞑想の神経基盤 科学研究費補助金基盤研究（A）（上記、No.4）	平成 24-26 年度
8	辻 正博 小島泰雄 小方 登	東アジア文化論 教授 地域空間論 教授 地域空間論 教授（流動） 地球環境学堂 教授	【代表】福原啓郎（京都外国語大学教授） 【分担】辻 正博・小島泰雄・小方 登 ほか 前近代中国における交通路と閩津の環境史学的研究 科学研究費補助金 基盤研究（B）	平成 25-26 年度
9	齋木 潤 阪上雅昭	認知科学 教授 地球環境動態論 教授	【代表】齋木 潤【分担】上田祥行【連携研究者】阪上雅昭 探索行動の非線形力学モデル 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究	平成 26-27 年度

共同研究【成果物】

No.	共同研究者	分野・職位等（発表時）	成果物	発表年
1	齋木 潤 上田祥行	認知科学 教授 こころの未来研究センター 特定助教	上田祥行・齋木潤 2010「三次元物体学習過程に依存した眼球運動の変化」Technical Report on Attention & Cognition, 9 <研究会予稿集>	2010
2	齋木 潤 陳 蕾 上田祥行	認知科学 教授 認知科学 D2 こころの未来研究センター 特定助教	陳蕾・上田祥行・齋木潤・Emily Cramer・Michelle Dusko・Ronald A. Rensink 2011「視覚探索課題時の注意の制御スタイルにおける文化の影響」Technical Report on Attention & Cognition, 5. <研究会予稿集>	2011
3	瀬戸口浩彰 宮下英明 山田俊太郎	生物環境動態論 教授 生命環境相関論 教授 生物環境動態論 M2	Shuntaro Yamada, Satoshi Ohkubo, Hideaki Miyashita and Hiroaki Setoguchi、2012, Genetic diversity of symbiotic cyanobacteria in Cycas revoluta (Cycadaceae) .FEMS Microbiology and Ecology, 81 (3) , 696-706. Elsevier	2012
4	齋木 潤 上田祥行	認知科学 教授 こころの未来研究センター 特定助教	Ueda, Y. and Saiki, J., 2012, Characteristics of eye movements in 3-D object learning: Comparison between within-modal and cross-modal object recognition.Perception, 41, 1289-1298.	2012
5	齋木 潤 樋口洋子 上田祥行	認知科学 教授 認知科学 D1 こころの未来研究センター 特定助教	樋口洋子・上田祥行・小川洋和・齋木 潤 2012「時空間的文脈手がかり効果のメカニズム」Technical Report on Attention & Cognition, 10, <研究会予稿集>	2012
6	篠原資明	創造行為論 教授	篠原資明 2012「まぶさび、知行遊と身口意」『身心変容技法の比較宗教学—心と体とモノをつなぐワザの総合的研究』, 第1号、64-69 頁、科研基盤研究（A）	2012
7	齋木 潤	認知科学 教授	齋木 潤 2012「瞑想と「協調による制御」：試論」『身心変容技法の比較宗教学—心と体とモノをつなぐワザの総合的研究』, 第1号、59-63 頁、科研基盤研究（A）	2012
8	壇辻正剛 坪田 康 津志本 陽	言語比較論 教授（協力） 学術情報メディアセンター 教授 学術情報メディアセンター 助教 学術情報メディアセンター 教務補佐員	壇辻正剛・坪田康・津志本陽・赤松紀彦・道坂昭廣・江田憲治 2012「中国語 CALL 教材の開発」『中国語の世界—上海・2012—』大地社	2012 2013
9	赤松紀彦 道坂昭廣 江田憲治	地域文明論 教授 東アジア文化論 教授 文明構造論 教授	壇辻正剛・坪田康・津志本陽・赤松紀彦・道坂昭廣・江田憲治 2013「中国語 CALL 教材の開発」『中国語の世界—北京・2013—』大地社	2013
10	篠原資明	創造行為論 教授	篠原資明 2013「まぶさび系色彩論」『身心変容技法の比較宗教学—心と体とモノをつなぐワザの総合的研究』, 第2号、79-82 頁、科研基盤研究（A）	2013
11	齋木 潤 樋口洋子 上田祥行	認知科学 教授 認知科学 D2 こころの未来研究センター 特定助教	樋口洋子・上田祥行・小川洋和・齋木 潤 2013「系列の潜在学習における課題依存性」Technical Report on Attention & Cognition, 8. <研究会予稿集>	2013
12	阪上雅昭 寺山 慧	地球環境動態論 教授 数理情報論 D2	K. Terayama, R. Sumiya and M. Sakagami, 2014, Estimation of Rotation Curves for Schools of fish with Optical Flow. 情報処理学会研究報告, Vol.2014-CVIM-190, No.17, pp.1-8	2014
13	阪上雅昭 寺山 慧	地球環境動態論 教授 数理情報論 D2	K.Terayama, D.Tadokoro, K.Shimatani and M. Sakagami, 2014, Analysis of a Long-time Evolution and Fluctuations in the Average Torus Shape of Fish School. Proceedings of the 6th International Symposium on Aero-aqua Bio-Mechanisms, pp.66-72	2014

No.	共同研究者	分野・職位等（発表時）	成果物	発表年			
14	阪上雅昭	地球環境動態論	教授	阪上雅昭・寺山 慧 2014「魚群の速度構造と平均トーラスの存在」Velocity Structure of Fish Schools and Existence of Averaged Tori, Proceedings of the 20th Symposium on Simulation of Traffic Flow, pp. 27-30	2014		
	寺山 慧	数理情報論				D2	
15	日置尋久	数理情報論	准教授	K. Terayama, H. Hiroki and M. Sakagami, 2014, A Speed Distribution Measurement Method of Collective Motion with Optical Flow and its Application to Estimation of Rotation Curve. Proceedings of IEEE International Symposium on Multimedia 2014, pp. 32-39. IEEE	2014		
	阪上雅昭	地球環境動態論				教授	
	寺山 慧	数理情報論				D2	
16	壇辻正剛	言語比較論	教授（協力）	壇辻正剛・坪田 康・津志本陽・江田憲治 2015「中国語デジタル教材の開発」『日本の風土和文化』創文堂印刷	2015		
		学術情報メディアセンター 教授					
	坪田 康	学術情報メディアセンター 助教					
	津志本陽	学術情報メディアセンター 教務補佐員					
17	江田憲治	文明構造論	教授	壇辻正剛・坪田 康・津志本陽・河崎靖 2015「ドイツ語デジタル教材の開発」『JAPAN: Land und Kultur』創文堂印刷	2015		
	壇辻正剛	言語比較論				教授（協力）	
		学術情報メディアセンター 教授					
	坪田 康	学術情報メディアセンター 助教					
	津志本陽	学術情報メディアセンター 教務補佐員					
河崎 靖	言語比較論	教授					
18	篠原資明	創造行為論	教授	篠原資明 2014「旅と身心変容―芭蕉とともに」『身心変容技法の比較宗教学―心と体とモノをつなぐワザの総合的研究』, 第3号、52-57 頁、科研基盤研究（A）	2014		
19	齋木 潤	認知科学	教授	齋木 潤 2014「瞑想は脳のネットワーク特性をどう変えるのか―脳波測定に向けての序論」『身心変容技法の比較宗教学―心と体とモノをつなぐワザの総合的研究』, 第3号、83-88 頁、科研基盤研究（A）	2014		
20	篠原資明	創造行為論	教授	篠原資明 2015「まぶさび、その美学と宗教学」『身心変容技法の比較宗教学―心と体とモノをつなぐワザの総合的研究』, 第4号、66-71 頁、科研基盤研究（A）	2015		

【資料 4-11】学際教育研究部の活動

1. 概要

・2008 年度に大学院人間・環境学研究科内に設置された部局内センターで、大学院教育研究推進部門、学部教育研究推進部門、講演会・地域連携等推進部門、広報活動・プロジェクト等推進部門の4部門から成り、学際的な教育研究活動の推進・支援を目的として次の業務を行う。

- (1) 学際的な教育研究プロジェクト等の推進事業の企画、立案及び運営に関すること
- (2) 学際的な教育研究の推進に係る支援策の企画、立案及び運営に関すること
- (3) 学際的な講演会等の企画、立案及び運営に関すること
- (4) 学際的な教育研究活動の情報発信に関すること
- (5) その他学際的な教育研究活動の推進及び支援に関すること

2. 活動内容

プロジェクト別の件数

年度		23	24	25	26	27	28
活動 内 容	ディベート式授業・模擬授業		1	1	2	2	4
	総合人間学部・人間・環境学研究科学生研究プロジェクト			3	3	2	
	京都大学総合博物館での企画展示	1	1				
	シンポジウム・講演会・研究会等 （ ）内は国際シンポジウムの数	8 (3)	6 (1)	3 (1)	5 (3)	5 (2)	6 (5)
	内訳						
	京都市および長浜市との連携交流	1	1	2	1	1	
	フランス人間科学研究財団との研究交流協定	3 (2)		1 (1)	1 (1)		
	その他	4 (1)	5 (1)		3 (2)	4 (2)	6 (6)

【資料 4-11】学際教育研究部の活動（つづき）

シンポジウム・講演会・研究会等

年度	開催日	タイトル	講演者・発表者等内訳			関連ある交流協定締結先
			部局内	国内 他機関	海外 研究者	
23	2011.10.08.	「和合亮一 講演会」		1		
	2011.11.24.	研究協力協定締結記念 ラウンド・テーブル「都市における農・食・住」	1	1	1	フランス人間科学研究財団
	2011.12.07- 2012.02.05.	京都大学総合博物館 特別展「ジョルジョ・ヴァザーリのウフィツィ：建築とその表現」				
	2011.12.10.	シンポジウム「ヴァザーリとイタリア・ルネサンスの芸術」	1	2		
	2011.12.13.	国立台湾師範大学芸術史研究所 院生研究発表会			6	
	2012.03.12.	講演会「ウェルトゥムヌス - 様々なアイデンティティを持つローマの神」			1	
	2012.03.17.	「庭とコミュニティ」シンポジウム「3.11 後に風雅を考える」	3	2		京都市・長浜市
	2012.03.20.	シンポジウム「日本：災害の後に」	1	1	1	フランス人間科学研究財団
24	2012.03.23.	都市政策研究：博士課程大学院生・ポストドクトラル研究交流集会	3		5	フランス人間科学研究財団
	2012.05.26.	シンポジウム「美学 vs. マンガ」	1	3		
	2013.01.16.- 2013.03.24.	京都大学総合博物館 平成 24 年度特別展「ウフィツィ・ヴァーチャル・ミュージアム」				
	2013.02.09.	レクチャー「高精細画像で味わうルネサンスの名画」	1			
	2013.03.10.	国際シンポジウム「文化財の保存と科学技術—日本とイタリアにおけるデジタル映像化の現状と未来」	1	3	3	
	2013.03.03.	講演会「記憶と視線」	2	1		
	2013.02.26- 2013.03.03.	作品展示『いつも何かに見られている』	1			
	2013.03.17.	長浜の水路調査 2012 報告会	3	1		京都市・長浜市
25	2013.03.17.- 2013.03.24.	長浜の水路調査 2012 パネル展				
	2013.03.30.	シンポジウム「宇宙とアート」	1	2		
	2013.10.24.	「ナショナリズム」に関するワークショップ		2	3	フランス人間科学研究財団
	2013.09.08.	水の無意識 風の記憶 ～水と風がひとをつなぐ～（講演・演奏）	1	3		
	2013.09.02.- 2013.09.08.	水の無意識 風の記憶 ～水と風がひとをつなぐ～（映像インスタレーション） 『水の景』		2		京都市・長浜市
	2013.10.27.	講演会「水と都市」	2	2		京都市・長浜市
	2014.03.27.	コロキウム「フランスと日本におけるナショナリズム」	1	2	4	フランス人間科学研究財団
	2014.03.14.- 2014.03.16.	ハワイ大学での国際交流会議				
26	2014.04.25.	シンポジウム「中原中也を再々読！」	2		1	
	2014.11.24.	国際シンポジウム「大学教育の国際化とは何か」	4	2	3	
	2014.03.07.	長浜のお庭講座	1	2		京都市・長浜市
27	2015.06.27.	長浜の庭園調査報告会「水のたわむれ—話と映像と音楽と—」 報告書『ながはまのお庭』vol.4 の発行	1	1		京都市・長浜市
	2015.10.23.	ミシェル・ヴィノック講演会「歴史、政治、思想からみたフランスの肖像」	2		1	
	2015.12.12.- 2015.12.13.	ルミネッセントマテリアルズ 2015 国際ワークショップ	1	11	8	
	2015.12.19.	ワークショップ「学際系部の教養教育」	4	4		
	2016.03.19.	シンポジウム「現代世界—欧州・中東—を《文学》から考える」	1	4		
28	2016.07.30.	講演会「Influence of Age and Culture on Memory」 Prof. Angela Gutches (Brandeis University, MA, USA)		1	1	
	2016.08.02- 2016.08.04.	日英共同カンファレンス「近代ヨーロッパにおける理性・差異・寛容」		3	5	
	2016.11.12.	講演会「人文地理学の未来」		4		
	2016.11.13- 2016.11.15.	日米合同国際ガラス科学技術シンポジウム				
	2016.11.16.	人環・総人学際セミナー「ガラス：芸術と科学」		1	4	
	2017.03.21.	若者文化シンポジウム 「ドイツでコミケ？ ドイツにおける日本のサブカルチャー」		2	1	

総合人間学部・人間・環境学研究科学生研究プロジェクト 採択課題

年度	研究テーマ	採択課題
25	研究テーマ「みる」	1. 現代日本に見るお化け屋敷 2. 「形に現れるもの」をみる 3. 総合的に学問して「みる」～ Bz という対象を使って多角的に「観る」～
26	研究テーマ「きく」	1. 京都に「きく」観光と教育 2. 学生と教員がお互いの声を「きく」Web 上ツールの開発 3. 時間評価：人に聞く「あなたの中でどれだけの時間が過ぎましたか」
27	研究テーマ「はかる」	1. 流行を企図（はか）る可能性 —ベトナムの国民的スポーツ「ダーカウ」の実践的研究— 2. 「総合人間学」はいかに生きうるのか

【資料 4-12】外部資金等の受入状況

年度		22	23	24	25	26	27
科学研究費 助成事業	新規(件数)	22	25	17	22	23	21
	新規・継続(件数)	64	67	71	73	71	61
	金額(千円)	193,780	255,960	215,900	194,700	196,700	156,700
	間接経費込(千円)	238,474	325,788	280,670	253,110	255,710	203,710
競争的外部資金	採択件数(総数)	5	5	9	8	6	4
	内訳 文部科学省	4	4	6	8	5	4
	他省庁等	1	1	3	0	1	0
	受入金額(千円)	131,350	98,655	114,914	134,110	106,059	12,428
共同研究	総数	9	7	19	13	14	10
	受入金額(千円)	17,291	18,884	27,336	19,779	24,295	17,224
	共同研究員受入人数	0	0	1	1	1	0
受託研究	件数	2	2	1	2	2	8
	受入金額(千円)	14,480	7,600	600	20,538	139,237	286,136
寄附金	件数	13	24	15	18	14	15
	受入金額(千円)	6,950	158,195	7,976	16,616	14,544	21,703
産業財産権・ 特許等	産業財産権の保有件数	2	2	2	4	4	
	特許 出願数	2	1	2	4	6	
	取得数	0	1	0	2	0	
	契約件数	0	2	2	5	4	
	ライセンス 収入額(千円)	0	3	51	2,112	2,329	

【資料 4-13】学生・修了生が獲得した助成金等

年度	22	23	24	25	26	27
	件数 (人数)	件数 (人数)	件数 (人数)	件数 (人数)	件数 (人数)	件数 (人数)
公益財団法人京都大教育研究振興財団						
在外研究長期助成	2 (D2) (技術補佐員)	1 (D2)	2 (D2) (D3)	1 (D3)	3 (D1) (D3/2名)	1 (D3)
在外研究中期助成	1 (D3)					
国際研究集会派遣助成 (I 期・II 期)	(D2/2名) 6 (D3/3名) (研究員)	2 (D2) (D3)		2 (M2) (D1)	1 (M2)	(D1/2名) 4 (D2) (教務補佐員)
小計	9	3	3	4	4	5
京都大学若手人材海外派遣事業ジョン万プログラム派遣人数						
総合人間学部生				3 (B2) (B4/2名)	(B1) 9 (B2/2名) (B3/3名) (B4/3名)	
人間・環境学研究所 院生 (修士課程)				2 (M1/2名)	4 (M1/3名) (M2)	
人間・環境学研究所 院生 (博士後期課程)				3 (D2) (D3/2名)	1 (D3)	
小計				8	14	
その他の助成金採択者						
国際親善奨学金プログラム (国際ロータリー財団)	1 (M2)					
米国研究助成プログラム (社団法人日米協会)	2 (D1) (D3)	1 (M2)	1 (M2)	4 (M2/3名) (決定時D3)	1 (M2)	
Fulbright Scholarship (日米教育委員会)		1 (D2)	2 (D1) (D3)			
フランス政府給費留学生制度						
ポーランド政府奨学金				1 (D3)		
ドイツ学術交流会 (D A D D) 奨学金 ボッシュドイツ牛学奨学金プログラム				1 (D2)		
竹中育英会建築研究助成	1 (D3)					
松下幸之助記念財団 研究助成		1 (2011 学位取得)	3 (D3/3名)			
松下幸之助記念財団 松下幸之助国際スカラシップ			1 (D1)			
笹川科学研究助成<学術研究部門>		3 (M2) (D2/2名)	2 (D3/2名)	3 (D3/2名) (修了生)	2 (D3) (PD)	2 (M2) (D3)
福武学術文化振興財団平成24年度助成事業 瀬戸内海文化研究・活動支援助成			1 (研修員)			
サントリー文化財団研究助成 若手研究者のためのチャレンジ研究助成			1 (D3)			
公益信託澁澤民族学振興基金国際研究集会参加旅費			1 (D3)			
公益財団法人昭和聖徳記念財団学術研究奨励				1 (2013 学位取得者)		
公益財団法人高梨学術奨励基金・若手研究助成					1 (D3)	
西村奨学財団奨学金					1 (D1)	
一般財団法人丸文財団交流研究助成						1 (D2)
井上科学振興財団井上研究奨励賞						1 (RPD2014学位取得)
日本学術振興会 科学研究費補助金 研究成果公開促進費			1 (PD)	1 (PD)		
日本学術振興会 育志賞			1 (D3)			
日本学術振興会 卓説した大学院拠点形成支援補助金			1 (D3/3名)			
日本アメリカ史学会研究支援 Grant			1 (D1)			
日本哲学会林基金 若手研究者助成				1 (2013単位取得退学者)	1 (D3)	
日本心理学会 ジェンダー研究会シードマネー				1 (D2)		
日本心理学会 2015 年度国際会議等参加旅費補助金 京都大学学際融合教育研究推進センター・国際研究発信力強化プログラム				1 (D3)		2 (M1) (M2)
小計	4	6	16	14	6	6
総計	13	9	18	17	10	11

【資料 4-16】学生の論文掲載数

(平成 27 年 9 月現在)

年度	23	24			26			27		
		学部生	修士	博士	学部生	修士	博士	学部生	修士	博士
共生人間学専攻	114	1	6	70	0	5	70	1	6	46
共生文明学専攻	35	0	2	26	0	2	37	0	1	24
相関環境学専攻	82	1	10	25	1	19	66	0	9	24
合計	231	2	18	121	1	26	173	1	16	94
		141			200			111		

【資料 4-18】教育コンテンツ等の作成について

(教員アンケート調査 H24.6 月・H27.7 月実施)

内容	教員名	詳細
授業関連情報の WEB 掲載	日置 尋久	●授業資料、関連情報、また課題を WWW サイトで提示している 【URL】 ● http://www.i.h.kyoto-u.ac.jp/~hioki/lect/ ●コンピュータリテラシーの演習では学生がグループ内でコミュニケーションをとるために学習支援システム (PandA) でフォーラム (掲示板) を開設し利用している。また同じく PandA を使って授業に関するコメントを学生に提出してもらって、それに対してフィードバックを行っている ●プログラミングの演習では独自のパッケージを作成し、授業で利用している
	森本 芳則	●個人ホームページに講義ノートを掲載 全学共通科目: 2012 年微分積分学 A-part1 (更新中)・2011 年微分積分学統論 A (前期)・2009 年微分積分学統論 B (後期) 総合人間学部科目: 2007 年度実解析 A (前期) 【URL】 ● http://www.math.h.kyoto-u.ac.jp/~morimoto/index-j.html
	立木 秀樹	●ホームページにて、作品、論文等を公開している ●Java Applet で、動作をさせながら理解できるようなコンテンツを提供している 【URL】 ● http://www.i.h.kyoto-u.ac.jp/~tsuiki/lecture.html
	吉田 純	●過去の授業で用いた資料 (パワーポイントスライド)、学生が提出した課題などを、ウェブ上でアーカイブ化し、履修学生・TA および教員のみが閲覧できるよう、パスワードで保護している (平成 26 年度以降は、PandA を利用) 【URL】 ● https://socio.k.kyoto-u.ac.jp/rtc
	川本 卓男	●ポケット・ゼミの授業内容、実験の写真などを京都大学高等養育研究開発推進機構の HP にて公開している 【URL】 ● http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/pocket.cgi?action=course_detail&id=1993
	水野 眞理	●全共英語では、KULASIS の授業資料機能を活用して、欠席した学生にも資料を配布している
	石川 尚人	●講義資料、実習用教材を HP に掲載している 【URL】 ● http://www.gaia.h.kyoto-u.ac.jp/~ishikawa/
	西山 教行	●全教科目のフランス語では文法教材をネットにあげ、現在、タブレット対応を進めている 【URL】 ● http://www.flae.h.kyoto-u.ac.jp/~nishiyama/index_jp.htm
京都大学オープン・コースウェアへの公開	藤田 耕司	●主催した国際会議の講演ビデオの公開 京都生物言語学会議—ヒトの言語能力：その設計・発達・進化— (2012 年 3 月 12 日開催) 【URL】 ● http://ocw.kyoto-u.ac.jp/international-conference/30/video 第 9 回言語進化の国際会議 Evolang IX 京都大会 【URL】 ● http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/international-conference/31 ●企画した講演会の模様を公開 言語学講演会 (2013 年 12 月 18 日開催) 【URL】 ● http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/opencourse/83
	西山 教行	●講義の公開 【URL】 ● http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/01-faculty-of-integrated-human-studies-jp/8138001 ● http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/01-faculty-of-integrated-human-studies-jp/7ju075 ● http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/graduate-school-of-human-and-environmental-studies-jp/06
	前川 寛	●全学共通科目「振動・波動論」の講義ビデオの公開 【URL】 ● http://ocw.kyoto-u.ac.jp/general-education-jp/2011/departement-b02/4322001/video ● http://www.youtube.com/watch?v=iLqKE5aaUq4
	富田 恭彦	●自分の HP 上に、自分の研究論文等を掲載している 【URL】 ● https://sites.google.com/site/diogenesphil/
研究関連情報の WEB 掲載	西山 教行	●教員個人のサイトを作成し、必要な情報を掲載している 【URL】 ● http://www.momiji.h.kyoto-u.ac.jp/~nishiyama/
	東郷 雄二	●自分のホームページ上で、自分が書いた研究論文、雑誌記事などを掲載している 【URL】 ● http://lapin.ich.kyoto-u.ac.jp/togo.html
	加藤 幹郎	●日本映画学会の学会誌、会報、その他の情報のオンライン HP の作成と運営 【URL】 ● http://www.cmn.hs.h.kyoto-u.ac.jp/CMN15/index-2011.html
	藤田 耕司	●企画した学会シンポジウムの模様を YouTube 上で公開している 関西言語学会第 39 回大会シンポジウム「言語理論と科学哲学」(2014 年 6 月 14 日開催) 【URL】 ● https://www.youtube.com/watch?v=3rYHX_r4Rvk ● https://www.youtube.com/watch?v=wJpoibCEgol
	多賀 茂	●読書会での報告のデータベースを作成中 【URL】 ● http://s-taga.com
	月浦 崇	●研究関連情報も含む研究室の情報を、研究室ホームページに公開している 【URL】 ● http://www.memory.jinkan.kyoto-u.ac.jp/index.html
	山本 洋紀	●論文等の京大リポジトリ (KURENAI) 登録 【URL】 ● http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/49802/simple-search?query=hiroki+yamamoto
	小島 泰雄	●科研の研究成果 (調査報告書) を KURENAI に公開した 【URL】 ● http://hdl.handle.net/2433/179530 ● http://hdl.handle.net/2433/197306 ●地域空間論研究室が編集にあたっている『地域と環境』第 13 号を KURENAI に公開した 【URL】 ● http://hdl.handle.net/2433/197662
	鎌田 浩毅	●ホームページに教育関連コンテンツへのリンクを掲載している 【URL】 ● http://www.gaia.h.kyoto-u.ac.jp/~kamata/
	内本 喜晴	●教員個人のサイトを作成し、必要な情報をそこに載せている 【URL】 ● http://www.uchimoto.jinkan.kyoto-u.ac.jp/
	金子 克哉	●現在、学生との共同研究により進行中の新しい観測機器の開発状況の web による逐次発信 (一般公開) 【URL】 ● http://www.gaia.h.kyoto-u.ac.jp/~homura/
	神川 龍馬	●個人の研究内容等をウェブ上で公開している 【URL】 ● https://sites.google.com/site/ryomakamikawa/
	吉田 寿雄	●研究室の HP に発表した論文・学会発表の情報を載せている。 【URL】 ● http://yoshida.jinkan.kyoto-u.ac.jp

教材開発	杉万 俊夫	●ビデオ講座『集団力学 入門編』（無料公開）・『集団力学 理論編 1～3』（DVD） ・『集団力学 実践編 1～3』（DVD） （公益財団法人集団力学研究所 2010 年 12 月発行） 【URL】 ● http://www.group-dynamics.org/html/video-lesson.html#introduction
	田地野 彰	●英語アカデミックリスニングコース用 e ラーニング教材を開発 教材名：Listening for Academic Purposes 高等教育研究開発推進センターおよび高等教育研究開発推進機構の教員たちの協力を得て作成し、2012 年 10 月から全学共通科目英語のアカデミックリスニングコース（集中）の教材として利用予定 受講予定学生数は約 1,700 名（8 クラス開講）
	Timothy Stewart	●e-learning course for the CALL classes（2012 年 10 月から）
	金丸 敏幸	●フランス語 CALL 教材（La Grammaire Active du Français）の作成協力 【URL】 ● http://text.asahipress.com/text-web/france/active_call/index.html ●英語 II（オーラルプレゼンテーション：Craig Smith 先生）の授業ビデオアーカイブの作成（DVD への収録） ●英語 II（アカデミック・リスニング）のウェブ教材（Listening for Academic Purposes）の作成（今年の 10 月より学内向けの公開）
	河崎 靖	●ドイツ語：教室型 CALL 教材作成（CD4 枚）『総合ドイツ語』／『入門ドイツ語』／『中級ドイツ語』／『自律型 CALL ドイツ語』 ●オランダ語：教室型 CALL 教材作成『オランダ語入門』 学内でのみ使用
	新宮 一成	●全学共通科目において、精神病理学関係の科目（自分自身と非常勤講師によるものの両方）で共通の参考書として用いることのできる教育用の本（通常の単行本として出版）を作成 新宮一成・片田珠美・芝伸太郎・西口芳伯 著『こころの病理学』丸善、2010 年、195 頁
	舟橋 春彦	●ショートムービー『力学台車の加速実験』制作

注) 京都大学オープン・コースウェアとは、学内で実際に利用している講義教材をインターネットで公開するプロジェクト
注) PandA とは、京都大学情報環境機構が提供している、WWW ブラウザから教員と学生が利用する学習支援サービス

【資料 4-19】学生相談室の利用件数

・相談件数

	総合人間学部					人間・環境学研究科			計
	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	5 回生以上	M1	M2	M3 以上	
28 年度	4	7	6	4	6	5	2	1	35

・平成 28 年 3 月から 12 月までの集計

・相談者の主訴の内訳

内 容	件数
学業	20
心理障害	4
性格	3
対人関係	1
サークル	1
家庭	1
恋愛	1
発達障害	1
その他	3
計	35



国際交流

5. 国際交流

【資料 5-1】外国人留学生受入数の推移（総合人間学部）

年度	23	24	25	26	27
KUINEP ^{*1} による受入	20	29	10	29	29
大学間学生交流協定による受入	5	20	14	19	18
合計	25	49	24	48	47

^{*1} KUINEP：Kyoto University International Education Program（京都大学国際教育プログラム）
 本学創立 100 周年の 1997 年に始まった。学生交流協定を締結している大学より、半年から 1 年間、留学生を受け入れている。協定校の学部生が本学の学生とともに英語で講義される科目を履修するプログラム。

【資料 5-2】外国へ留学等をした学生数の推移（総合人間学部）

年度	23	24	25	26	27
大学間学生交流協定 ^{*1} による派遣	9	7	11	14	12
観光を除く海外渡航 ^{*2}	17	42	50	48	39
合計	26	49	61	62	51

^{*1} 学生交流協定を締結している大学へ半年から 1 年間、日本人学生を派遣するプログラム（平成 9 年開始）
^{*2} 語学研修、インターンシップ、ボランティア等

【資料 5-3】外国人留学生受入数の推移（人間・環境学研究科）

（各年度 5 月 1 日現在）

年度		23	24	25	26	27	28
修士課程	国費	6	8	8	8	8	5
	私費	55	44	39	33	43	58
博士後期課程	国費	14	9	9	12	11	16
	私費	35	37	40	36	45	45
研究生・特別研究生	国費	3	3	1	2	2	3
	私費	8	17	14	13	9	15
合計		121	118	111	104	118	142

注）・在留資格が「留学」以外も含む

【資料 5-4】出身地域別留学生受入数（人間・環境学研究科）

（各年度 5 月 1 日現在）

地域	国または地域名	年度						計
		23	24	25	26	27	28	
アジア	インド	2	2	2		1	1	8
	インドネシア共和国	2	2	1	1	1	1	8
	大韓民国	14	10	9	7	6	9	55
	台湾	7	10	9	8	7	10	51
	中華人民共和国	74	70	62	59	75	93	433
	ベトナム社会主義共和国						1	1
	マレーシア			1	1	1	1	4
	モンゴル国	2	2	2	2	1	1	10
北米	アメリカ合衆国	1	2	4	4	5	5	21
	カナダ					1	2	3
中南米	ブラジル連邦共和国	1	2	2	3	2	2	12
	ペルー共和国			1	1	2	2	6
欧州 (NIS 諸国含む)	イタリア共和国		1				1	2
	ウクライナ	1	2	1	1	1	1	7
	ウズベキスタン	1	1	1	1	1		5
	エストニア						1	1
	オランダ王国					1		1
	ギリシャ共和国	1						1
	グルジア	1	1	1	1	1	1	6
	スペイン	1	1	1	1			4
	ドイツ連邦共和国		1	3	3	2	1	10
	ハンガリー	1	1	1	1	1	2	7
	フランス共和国	1	1	1	1	3	2	9
	ブルガリア共和国	1						1
	ベルギー王国	1	1	1	1	1	1	6
	ベラルーシ共和国		1	1	1	1	1	5
	マルタ共和国	1						1
	リトアニア共和国			1	1	1		3
	ルーマニア		1	1	1	1	1	5
	ロシア連邦	3	2	2	2	1	2	12
大洋州	オーストラリア連邦	1	1	1	1			4
	ニュージーランド				1	1	3	5
中東	イスラエル国	1	1					2
	イラン・イスラム共和国	2	1	1				4
アフリカ	ケニア	1	1	1	1			4
合計		121	118	111	104	118	145	717

注)・在留資格が「留学」以外も含む

【資料 5-5】外国人研究者等受入数の推移

年度	23	24	25	26	27	28
外国人研究員 ^{※1} (客員教授・准教授)	5	5	5	5	5	5
外国人共同研究者 ^{※2}	4	1	3	4	3	3
招聘外国人学者 ^{※2}	6	10	7	9	4	1
計	15	16	15	18	12	9

注) ^{※1} その年度内に受け入れた人数を示す

^{※2} その年度内に滞在した人数を示す

【資料 5-6】外国人研究員（客員教授・客員准教授）による国際交流セミナー開催状況

年度	受入れ期間	氏名	所属	受入教員	国際交流セミナー（開催日・講演タイトル）
23	2011年5月10日－ 2011年8月31日	陳 化	武漢大学教授(数学)	森本 芳則	2011年7月15日 ドラマの幾何学的な図形を聞くことができますか？
	2011年9月1日－ 2011年11月30日	McDonald, Mary Grace	ハワイ大学 地理学科准教授(人文地理学)	金坂 清則	2011年10月20日 明治時代における日本の米をめぐる地理学：20 世紀における流動性の基盤形成
	2011年9月8日－ 2011年12月31日	HARRIS, Kenneth David Maclean	カーディフ大学 化学科教授(物理化学)	津江 広人	2011年12月1日 A personal journey from Scottish culture and a British education to research adventures in the physical chemistry of solids, inspired by scientific heros
	2011年12月2日－ 2012年4月30日	CANDELIER, Michel	メーヌ大学教授(言語教育学)	西山 教行	2012年4月10日 政治家は研究者の声を聞か？ ーヨーロッパからの証言ー
	2012年1月4日－ 2012年4月30日	張 玉林	南京大学 社会学系教授(農村社会学・環境社会学)	江田 憲治	2012年4月17日 中国エネルギーの開発と地域社会 ー山西省の「鉱害」を中心にー
24	2012年5月5日－ 2012年9月14日	GERMAIN, Claude	ケベック大学モントリオール校言語学・ 言語教育学部教授(言語教育学)	西山 教行	2012年6月21日 カナダの言語政策と言語教育
	2012年8月20日－ 2013年2月19日	STAVROS, Matthew Gerald	シドニー大学日本研究学科准教授 (前近代日本史(生活空間史))	中嶋 節子	2012年11月5日 「足利義満と中世京都」日本と海外の研究の報告
	2012年9月15日－ 2013年3月14日	NEDDAR, Bel Abbes	モスタガネム大学(アルジェリア民主人 民共和国) 上級講師(准教授相当)(英語 学)	水野 眞理	2012年11月29日 グローバル化と多言語主義
	2013年1月7日－ 2013年4月30日	VOROBIEV, Andrey	モスクワ国立大学化学科教授	田村 類	2013年4月11日 ロシアにおける科学の歴史およびモスク ワ国立大学の立ち位置
	2013年3月1日－ 2013年8月31日	NIGLIO, Olimpia	eキャンパス大学(イタリア、コモ) 教授(建築史・修復史)	岡田 温司	2013年5月23日 ジョン・ラスキンの文化財保存
25	2013年4月1日－ 2013年7月31日	BUCHEIM, Thomas	ミュンヘン(ルートヴィヒ・マクシミリ アン) 大学文学部哲学科第三講座正教 授(哲学)	安部 浩	2013年6月5日 こころをばなになにとへんー「翼の付い た戦車の動力」(プラトン)と「手のよう に」(アリストテレス)
	2013年8月1日－ 2014年1月31日	ERDEMIR, Ali Volkan	エルジェス大学文学部日本語日文学 科助教授 (日本語・日文学・共生文明学)	稲垣 直樹	2013年10月24日 親日国トルコ共和国における日本文学・ 日本文化研究および教育の過去と現在
	2013年10月1日－ 2013年12月31日	DORENBOS, Pieter	デルフト工科大学応用科学部教授 (固体光物性)	田部 勢津久	2013年10月29日 Luminescence in science and society ～科学、社会における蛍光の意義～
	2014年1月1日－ 2014年3月31日	NUSSAUM, Yann	国立ノルマンディー建築大学教授 (都市建築と景観)	伊従 勉	2014年1月28日 戸建て住居と持続可能な地域形成
	2014年2月1日－ 2014年4月30日	ALLIOUX, Yves-Marie	トゥールーズ大学日本語学科講師 (定年退職)(日本近・現代文学)	新宮 一成	2014年4月28日 三人の日本のランボー：石川啄木・宮沢 賢治・中原中也
26	2014年4月1日－ 2014年6月30日	MARTINEZ, Pierre	パリ第 8 大学名誉教授・国立ソウル大学 教授(言語教育学)	西山 教行	
	2014年 6 月 1 日－ 2014年 8 月31日	COQUEREL Gérard. François. René	ルーアン大学教授(結晶化学)	田村 類	2014年7月24日 ノルマンディー：大学における歴史的 事実と教育制度
	2014年 9 月1日－ 2014年12月31日	BEACCO, Jean-Claude	パリ第 3 大学名誉教授(言語教育学)	西山 教行	2014年10月23日 フランスとヨーロッパにおける移民につ いて：多元的社会と多元的アイデンティ ティをめぐって
	2014年10月1日－ 2014年12月31日	VIANA, Bruno	フランス国立科学研究センター 一級ディレクター(材料科学)	田部 勢津久	2014年11月5日 熱ルミネッセンス：ルーヴル美術館と医 療イメージングの新材料への利用
	2014年11月11日－ 2015年2月10日	張 学鋒	南京大学歴史系教授(中国中世の歴史)	辻 正博	2014年12月4日 墓誌から見た中国北朝時代の民族融合ー 司馬金龍家族墓誌を手がかりとして
27	2015年7月7日- 2015年10月9日	董 海峰	中国・北京科技大学教授	小松 直樹	2015年7月29日 中国の文化と教育
	2015年9月1日- 2015年12月31日	Tanner, Peter Anthony	香港教育大学客員教授(分光化学)	田部 勢津久	2015年10月9日 Ultramarathon Running
	2015年10月1日- 2016年3月31日	Leone, Massimo	トリノ大学哲学科准教授(美学・記号学)	岡田 温司	2015年12月17日 自然のいたずら

年度	受入れ期間	氏名	所属	受入教員	国際交流セミナー（開催日・講演タイトル）	
27	2015年11月24日- 2016年3月31日	FRITSCH Matthias	カナダ・コンコーディア大学教授 (現代哲学)	安部 浩	2016年1月25日	Taking Turns with the Earth A Proposal for Intergenerational and Environmental Justice かわりばんこに地球住もう ― 世代間環境正義に関する一提言
	2015年3月1日- 2016年5月31日	Steffen Monika	グルノーブル第二大学教員, グルノーブル政治学院名誉研究員 (政治学)	小畑 史子	2016年4月25日	The French Social Model: The Case of the Safety Net for Healthcare
28	2016年 4月25日- 2016年 7月24日	ZHAO Li	中国・蘇州大学准教授(材料化学)	小松 直樹	2016年5月26日	Drug discovery in China: From traditional Chinese medicine to emerging nanomedicine
	2016年 4月25日- 2016年 7月24日	Tesfaye Kidane	エチオピア・アジスアベバ大学教授(構造地質学・古地磁気学)	石川 尚人	2016年7月11日	Brief History of Geoscience Research at One of the World's Unique Incipient Oceanic Rift, Afar Depression, Ethiopia
	2016年 6月20日- 2016年12月19日	Rossella Lupacchini	イタリア・ボローニャ大学准教授	岡田 温司	2016年10月31日	In Praise of Light and Shadows
	2016年12月 1日- 2017年 5月31日	Xiao Chen	中国・武漢大学教授(薬理学)	小松 直樹	2017年 1月17日	Where Two Rivers Meet and Three Towns Stand
	2017年 1月 1日- 2017年 6月30日	Richter Steffi	ドイツ・ライプチヒ大学教授(地域研究・日本研究)	田邊 玲子	2017年 4月18日	三木清『現代学生と思考の貧困』― 思考の悲しみと歓喜 "Sadness and Joy of Thought"

【資料 5-7】部局間学術交流協定締結先一覧

締結先	締結日
台湾国立成功大学社会科学院	2007年 4月 1日 ~ 2012年 3月31日
フランス人間科学財団 (FMSH) (研究交流および協力の基本協定)	2011年11月24日 ~ 2015年11月23日
中国科学院成都生物研究所	2012年 5月24日 ~ 2016年 5月23日
カザフスタン生物多様性保全協会	2013年 3月 4日 ~ 2017年 3月 3日
サナタ・ダルマ大学 (インドネシア)	2014年 6月11日 ~ 2019年 6月10日
國立臺灣大学 (文学研究科、経済学研究科との共同締結)	2015年 3月 4日 ~ 2018年 3月 3日



施設・設備

6. 施設・設備

【資料 6-1】使用目的別 室数と保有面積

(面積：㎡, 平成 28 年度)

建物	教室 ^{*1}		教員研究室 ^{*2}		事務室 ^{*3}		その他 ^{*4}	
	部屋数	面積	部屋数	面積	部屋数	面積	部屋数	面積
吉田南総合館	7	287	170 [10]	5,822 [288]	0	0	24 [10]	954 [652]
吉田南 2 号館	3	216	49 [4]	1,382 [124]	0	0	4 [3]	196 [182]
吉田南 3 号館	2 [1]	162 [81]	31 [9]	840 [162]	1	36	3	180
吉田南 4 号館	0	0	0	0	0	0	2	50
総合人間学部棟	15	1,114	16	883	4	178	5	111
人間・環境学研究科棟	7	664	133	4,815	10	452	22 [6]	1,518 [622]
計	34 [1]	2,443 [81]	399 [23]	13,742 [574]	15	666	60 [19]	3,009 [1,456]

注) ・[] 内は、他部局利用スペース(貸借等)で内数

^{*1} 講義室、実験実習・演習室、語学実習室を示す

^{*2} 実験室、院生室、共同研究室が含まれる

^{*3} 会議室(3 室)が含まれる

^{*4} ボイラー室、電気(電源)室、ポンプ室、倉庫などが含まれる。また、吉田南総合図書館の使用スペース(14 室)が含まれる

【資料 6-2】使用形態別 室数と保有面積

(面積：㎡, 平成 28 年度)

建物	講義室		実験・実習・演習室		語学実習室		合計	
	部屋数	面積	部屋数	面積	部屋数	面積	部屋数	面積
吉田南総合館	0	0	7	287	0	0	7	287
吉田南 2 号館	0	0	3	216	0	0	3	216
吉田南 3 号館	0	0	2 [1]	162 [81]	0	0	2 [1]	162 [81]
吉田南 4 号館	0	0	0	0	0	0	0	0
総合人間学部棟	10	800	4	203	1	111	15	1,114
人間・環境学研究科棟	2	353	5	311	0	0	7	664
計	12	1,153	21 [1]	1,179 [81]	1	111	34 [1]	2,443 [81]

注) ・[] 内は、他部局利用スペース(貸借等)で内数

【資料 6-3】吉田南総合図書館について

概要

(平成 28 年 10 月末日現在)

	占有面積	閲覧座席数	開館時間
吉田南総合図書館 (本館) ※平成 26 年 4 月 「人間・環境学研究科総合 人間学部図書館」より改組	4,365 m ²	1 階 閲覧席 96 席 1 階 視聴覚室 10 席 1 階 新聞閲覧室 40 席 2 階 大閲覧室 268 席 2 階 OSL ^{*1} 54 席 その他 ^{*2} 8 席 合計 486 席	平 日 9:00-20:00 土曜日 10:00-15:00
南棟書庫 (吉田南総合館) (7 室)	590 m ²	0 席	平 日 9:00-18:45 (土曜日 閉室) (南棟第 7 書庫は出納制)
環 on	153 m ²	40 席	平日 9:00-17:00 (土曜日 閉室)

*1 情報環境機構(学術情報メディアセンター)のオープン・スペース・ラボラトリー(OSL)として、インターネットに接続したパソコン 28 台が利用できるほか、持ち込み PC 等を利用できる座席 26 席を設置

*2 ホールのソファ席

蔵書冊数

年度	20	21	22	23	24	25	26	27
和書	314,479	301,944	307,442	312,141	348,815	363,828	369,884	385,041
洋書	273,220	266,201	267,497	272,978	294,364	296,976	297,078	298,763
合計	587,699	568,145	574,939	585,119	643,179	660,804	666,962	683,804

入館者数

年度		20	21	22	23	24	25	26	27
本館	学部生	170,760	148,902	165,864	172,043	151,452	160,511	154,998	155,382
	大学院生	31,953	27,943	29,799	29,058	28,574	27,102	27,357	26,894
	教職員	4,562	5,092	5,424	5,625	5,637	5,657	6,026	5,984
	その他	3,671	1,906	2,865	3,790	2,817	3,626	3,160	2,821
	新聞閲覧室				28,076	26,984	26,628	30,068	28,266
	合計	210,946	183,843	203,952	238,592	215,464	223,524	221,609	219,347
環 on		9,662	8,572	7,396	7,687	11,435	12,932	9,891	9,686

貸出冊数

年度	20	21	22	23	24	25	26	27
学部生	45,739	43,143	42,321	43,500	49,058	49,907	51,633	49,934
大学院生	27,183	27,833	27,274	27,339	29,599	29,732	31,031	31,988
教職員	6,380	6,083	5,902	6,667	7,200	7,128	7,521	7,960
その他	1,210	1,173	1,085	1,279	1,388	1,646	1,962	1,884
合計	80,512	78,232	76,582	78,785	87,245	88,413	92,147	91,766

部局別貸出人数

年度	20	21	22	23	24	25	26	27
全体	48,251	48,352	48,010	47,922	52,569	53,114	54,791	54,704
人環・総人	13,685	14,465	14,359	13,741	14,735	14,502	15,658	15,501

文献複写処理件数

年度	20	21	22	23	24	25	26	27
依頼実施件数	1,419	1,124	1,622	1,582	844	1,027	1,250	1,133
依頼謝絶件数	81	76	114	196	62	62	76	35
受付実施件数	432	446	382	364	328	502	362	413
受付謝絶件数	106	66	67	51	54	53	37	40

【資料 6-3】吉田南総合図書館について(つづき)

現物貸借処理件数

年度	20	21	22	23	24	25	26	27
依頼実施件数	662	479	611	759	509	477	579	601
依頼謝絶件数	77	61	83	84	43	33	35	22
受付実施件数	357	409	440	460	576	587	592	663
受付謝絶件数	149	89	103	110	70	56	72	61

図書館が発行する刊行物（平成 28 年 4 月現在）

名称	発行時期	発行部数	発行目的
利用案内（Library Guide）	4 月	1,550	図書館の施設、資料、サービス、電子リソース等の紹介と利用の案内 （日本語 / 英語 併記）
かりん	12 月	1,800	利用者とのコミュニケーションの推進、図書館資料の紹介、利用案内、情報活用の向上、図書館概要・図書館活動の周知
Library News Letter	年 9 回 （8、9、3 月を除く毎月）	300	人間・環境学研究科及び総合人間学部に所属する学生教職員をはじめとする吉田南構内関係各部局の構成員、全学共通教育科目履修生に向けての情報提供及びコミュニケーションの推進



社会との交流・公開

7. 社会との交流・公開

【資料 7-1】公開講座

年度	開催日・テーマ・場所	講師	演題	参加人数
23	科学・技術の これまでとこれから 平成 24 年 2 月 21 日 (火) 2 月 22 日 (水) 13:00 ~ 18:00 人間・環境学研究科棟 地階大講義室	杉万 俊夫	「文系から見た原子力発電」(人間・環境学研究科教授)	46
		瀬戸口 浩彰	「野の植物を活かす「これまで」と「これから」」(人間・環境学研究科准教授)	
		佐野 亘	「科学・技術をどのようにコントロールするか」(人間・環境学研究科准教授)	
		山本 行男	「物質と光と色―実験で確かめる真実」(人間・環境学研究科教授)	
		カール・ベッカー	「科学技術が起こす環境問題と医療問題～市民の決定権と義務～」(人間・環境学研究科教授)	
		小木曾 哲	「私たちは地球をどこまで理解しているのか？」(人間・環境学研究科准教授)	
24	起源に迫る 平成 25 年 3 月 17 日 (日) 13:00 ~ 18:00 人間・環境学研究科棟 地階大講義室	月浦 崇	「記憶の起源を脳に探る」(人間・環境学研究科准教授)	65
		藤田 耕司	「人間の言語能力と知性の起源に迫る」(人間・環境学研究科教授)	
		西山 良平	「西暦 1000 年前後の京都の町―現在の京都の始まり―」(人間・環境学研究科教授)	
		阪上 雅昭	「ビッグバン宇宙・惑星・生命そして群れ」(人間・環境学研究科教授)	
25	基盤を探る 平成 25 年 10 月 5 日 (土) 10:00 ~ 17:30 京都大学案友会館 2 階会議・講演室	木下 俊哉	「レーザーで原子を止める―宇宙で最も冷たい物質―」(人間・環境学研究科准教授)	30
		田中 真介	「乳幼児期・児童期・青年期の人格形成の発達の基礎―子供たちの言葉にならない言葉を受け止める―」(国際高等教育院准教授)	
		佐藤 義之	「道徳に基盤はあるか」(人間・環境学研究科教授)	
		畑 安雄	「酵素分子の形から代謝の仕組みを探る―構造生物学への誘い―」(化学研究所教授)	
26	多様性に向き合う 平成 26 年 10 月 4 日 (土) 10:00 ~ 17:30 京都大学案友会館 2 階会議・講演室	服部 文昭	「世界の多様な言語の将来は？」(人間・環境学研究科教授)	39
		松井 正文	「動物の種多様性：両棲類を例に」(人間・環境学研究科教授)	
		風間 計博	「キリバスのサンゴ島で多様性を考える―過酷な環境下の生活実践―」(人間・環境学研究科教授)	
		神崎 素樹	「神経システムの簡略化からヒトの多様な動作を捉える」(人間・環境学研究科准教授)	
27	共生社会に向けて 平成 27 年 10 月 3 日 (土) 10:00 ~ 17:30 京都大学案友会館 2 階会議・講演室	市岡 孝朗	「熱帯雨林の生物は共生しているか？：生物多様性を支える相互作用の網」(人間・環境学研究科教授)	38
		倉石 一郎	「日本型「多文化共生」と人間形成―教育学の視点から」(人間・環境学研究科准教授)	
		船曳 康子	「多様なヒトと共に生きるには」(人間・環境学研究科准教授)	
		田中 雅一	「共生を拒否する宗教と共生を試みる宗教」(人文科学研究科教授)	
28	人間と環境 平成 28 年 8 月 9 日 (火) 13:30 ~ 17:30 人間・環境学研究科棟 地階大講義室	セッション 1「民主主義は環境問題の解決に寄与しうるか」 ◇講演：佐野 亘 ◇パネルディスカッション：佐野 亘 / 戸田 剛文 / 阪上 雅昭 セッション 2「カオスと人間」 ◇講演：酒井 敏 ◇パネルディスカッション：酒井 敏 / 土屋 徹 / 細見 和之		94

【資料 7-2】総合人間学部オープンキャンパス開催状況

【参加人数】

年度	事前申込数	参加者数
23		1,737
24		1,583
25	1,926	1,800
26	1,696	1,700
27	1,772	1,600
28	1,982	2,100

平成 28 年度総合人間学部オープンキャンパスの内容

【開催日時】平成 28 年 8 月 9 日（火）吉田南構内

【企画内容】

① 学部説明会・模擬講義（吉田南 4 号館 3F 4 共 30 教室）

- 11:00 ～ 12:15 学部説明会 A + 講義Ⅰ（11:30 ～ 12:15 岡 真理 教授「人権の彼岸に生きる人々～パレスチナ問題から考える《人間とは何か》」）
- 13:30 ～ 14:45 学部説明会 B + 講義Ⅱ（14:00 ～ 14:45 西川完途 准教授「オオサンショウウオとヒトとの関わり」）

② 相談コーナー—教員・学生と語ろう—（10:00 ～ 16:00 吉田南総合館北棟 1 階 共北 11, 共北 12 教室）

③ 研究室・実験室公開 時間帯 第 1 クール（12:30 ～ 13:15）第 2 クール（13:45 ～ 14:30）第 3 クール（15:15 ～ 16:00）

人間科学系	● 松田 英男 教授（映画論）
	● 佐藤 義之 教授（哲学・倫理学）
	● 小島 基洋 准教授（英文学）
認知情報学系	● 船曳 康子 准教授（精神医学・発達行動学）
	● 上木 直昌 教授（確率解析学）
	● 河崎 靖 教授（比較・対照言語学）
国際文明学系	● 合田 昌史 教授（西洋史・ポルトガル・スペイン近世史）
	● 佐野 宏 准教授（万葉集・古代日本語・日本語史）
	● 高谷 修 教授（イギリス文学・比較文学）
文化環境学系	● 太田 出 教授（中国近世史・東西文化交渉史）
	● 増井 正哉 教授（都市史・建築史・歴史的環境の保全再生）
	● 岩谷 彩子 准教授（人類学・「ジブシー」／ロマ研究）
自然科学系	● 木下 俊哉 准教授（物性物理学）
	● 高橋 弘樹 助教（有機構造学）
	● 市岡 孝朗 教授（熱帯雨林の昆虫学）
	● 石川 尚人 教授（古地磁気学・岩石磁気学）

④ 総人紹介コーナー（10:00 ～ 16:00）

- パネル展示（吉田南総合館北棟 1 階ラウンジ）
- 教員著書展示（吉田南総合図書館）

⑤ 学生による企画

- 学生企画Ⅰ：京都大学各種団体の演技（12:15 ～ 13:30）
- 学生企画Ⅱ：現役総人生による学部紹介（11:00 ～ 12:15 / 13:30 ～ 14:45）

【資料 7-3】本研究科関係発行元による学術誌

	タイトル	発行元 / 最新号 /ISSN
1	『人間・環境学』	京都大学大学院人間・環境学研究科 最新号: 第25巻(2016-12-20) ISSN:0918-2829
2	『人環フォーラム』	京都大学大学院人間・環境学研究科 最新号: No.35(2016-03-15) ISSN:1342-3622
3	『言語科学論集』 (Papers in Linguistic Science)	京都大学大学院人間・環境学研究科言語科学講座 最新号: 第21号(2015-12)
4	『ドイツ文学研究』 (ドイツ文学研究報告)』	京都大学人間・環境学研究科ドイツ語部会 最新号: 第61号(2016-03-25) ISSN:0419-5817
5	『文明構造論： 京都大学大学院人間・環境学研究科 現代文明論講座文明構造論分野論集』	京都大学大学院人間・環境学研究科現代文明論講座文明構造論分野『文明構造論』刊行会 最新号=Vol.10(2014-10-31) ISSN:1880-4152 (閉巻)
6	『人間存在論』	京都大学大学院人間・環境学研究科総合人間学部『人間存在論』刊行会 最新号: 第20号(2014-07-01) ISSN: 1341-2698
7	『英文学評論』 Review of English Literature	京都大学大学院人間・環境学研究科英語部会 最新号: 第88集(2016-02-28) ISSN: 0420-8641
8	『あいだ／生成』	あいだ哲学会(京都大学大学院人間・環境学研究科篠原資明研究室) 最新号: 第6号(2016-03-20) ISSN:21859515
9	『歴史文化社会論講座紀要』	京都大学大学院人間・環境学研究科歴史文化社会論講座 最新号: 第13号(2016-02-28) ISSN:1344-4824
10	Contributions from the Biological Laboratory, Kyoto University	京都大学大学院人間・環境学研究科 最新号: Vol.30 No.2 (30-Jan-2015) ISSN: 0452-9987
11	『社会システム研究』	京都大学大学院人間・環境学研究科京都大学総合人間学部社会システム研究刊行会 最新号=第19号(2016-03) ISSN: 1343-4497
	『ディアファネース：芸術と思想』	京都大学大学院人間・環境学研究科岡田温司研究室 最新号 = 第 3 号 (2016-03-30) NCID: AA12674073
12	『文芸表象論集』	京都大学大学院人間・環境学研究科 文芸表象会 最新号: 第4号(2016-12-31) ISSN: 2188-0239
13	『地域と環境』	京都大学大学院人間・環境学研究科「地域と環境」研究会編 最新号: 第13号(2014-12) ISSN: 1344-0985
14	『コンタクト・ゾーン』	『コンタクト・ゾーン』（京都大学人文科学研究所人文国際研究センター発行）の後続誌 006 から人間・環境学研究科（文化人類学分野）発行（電子版のみ） 最新号：第 08 号（2016-03-31）ISSN:2188-5974
15	『いのちの未来』	京都大学大学院人間・環境学研究科カール・ベッカー研究室 最新号：第 1 号（2016-01-15）ISSN: 2423-9445

【資料 7-4】アウトリーチ活動について

		(件数)					
年度		23	24	25	26	27	28
出張講義	高等学校・中高一貫校	8	5	3	6	7	9
	小・中学校・小中一貫校	0	1	4	6	2	5
	その他	1	0	1	3	1	2
	合計	9	6	8	15	10	16
訪問受入	高等学校・中高一貫校	4	12	11	14	9	16
	小・中学校・小中一貫校	0	0	1	1	0	2
	その他	0	0	1	1	0	1
	合計	4	12	13	16	9	19

京都大学大学院人間・環境学研究科

『人環レビュー』編集委員会

委員長	石川 尚人	(相 関 環 境 学 専 攻)
副委員長	桂山 康司	(共 生 文 明 学 専 攻)
委員	神崎 素樹	(共 生 人 間 学 専 攻)
	河崎 靖	(同 上)
	倉石 一郎	(同 上)
	須田 千里	(共 生 文 明 学 専 攻)
	高谷 修	(同 上)
	佐野 亘	(相 関 環 境 学 専 攻)
	西川 完途	(同 上)
	小木曾 哲	(同 上)

人環レビュー 資料編 2016

教育・研究活動の自己評価 資料編

2017年3月発行

編集・発行 京都大学大学院人間・環境学研究科
〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町
TEL: 075-753-6599(総務企画室) FAX: 075-753-7908
<https://www.h.kyoto-u.ac.jp/>

印刷・製本 有限会社レイ・プリンティング

©2016 Graduate School of Human and Environmental Studies, Kyoto University

本誌の無断転写・転載を禁じます。

人環レビュー

資料編

2016